

令和元年度

学生生活実態調査

報告書

Aichi University of Education



国立大学法人
愛知教育大学

はじめに

令和元年 7 月に実施した学生生活実態調査の結果がまとまりましたので、ここに報告致します。前回は平成 27 年 7 月に実施しましたので 4 年ぶりの調査になります。従来は調査用紙を配布・回収する方法で実施しており、特に前回は 84.3% という高い回収率を達成しました。そのような中で今回は初めて Web 入力による回収を行いました。回収率の低下が懸念されましたが、結果として学部・大学院・専攻科、計 3,020 名から回答を得ることができ、回収率も 72.7% に達しました。膨大な質問項目にご協力いただいた学生の皆さん、そして実施にご協力いただいた教職員の皆さんに感謝申し上げます。

本学刈谷キャンパスは学生・教職員を合せると約 4,700 名のコミュニティになります(附属高校分を除く)。学生はその重要で最大なる構成員です。この調査は、その学生生活全体に関わる学生の意見を直接すくい上げができる貴重な機会です。調査を通してより多くのデータを基に客観的に学生の実態や意見を知り、理解を深め、キャンパスの改善に向けて共に建設的に検討していきたいと考えます。

前回からの 4 年間でキャンパスの整備・美化が多く行われました。例えば、AUE スクエアと教育交流館、図書館、第一人文棟(教育・人文棟)、次世代教育イノベーション棟等の改修、駐輪場や AUE セミナーハウス、馬術部厩舎等の新築、なんでも相談室の設置などが挙げられます。教育面でも学部改組により教育支援専門職養成課程が誕生し今年度は 3 年目を迎えます。学校サポート活動を始めとする実践力育成科目や教職教養科目も導入されました。反面で改革の過渡期と言える現在は、学生にも様々に負担をかけています。今回の調査からは、その変革を受け止め、さらに改善しようとする学生の提案が多く込められていると感じます。ICT 環境整備へのニーズの高さは今の時代を反映していると言えるでしょう。

今後も厳しい財政状況の中ではありますが、より良い愛知教育大学の創造のために、今後ともご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

令和 2 年 3 月

愛知教育大学 学生支援委員会委員長

新井 美保子



目 次

1) 基本事項	1
2) 経済状況	2
3) アルバイト	3
4) 学生支援体制について	5
5) 通学状況	8
6) 大学の施設利用、居場所	10
7) 授業のある日の時間の使い方	11
8) 就職活動の支援	17
9) 課外活動	19
10) 施設	21
11) 大学に期待すること	24
12) 総括	26
13) 参考資料	28



教育未来館

1) 基本事項

＜愛知教育大学の学生は、変わらず8割以上が愛知県出身者＞

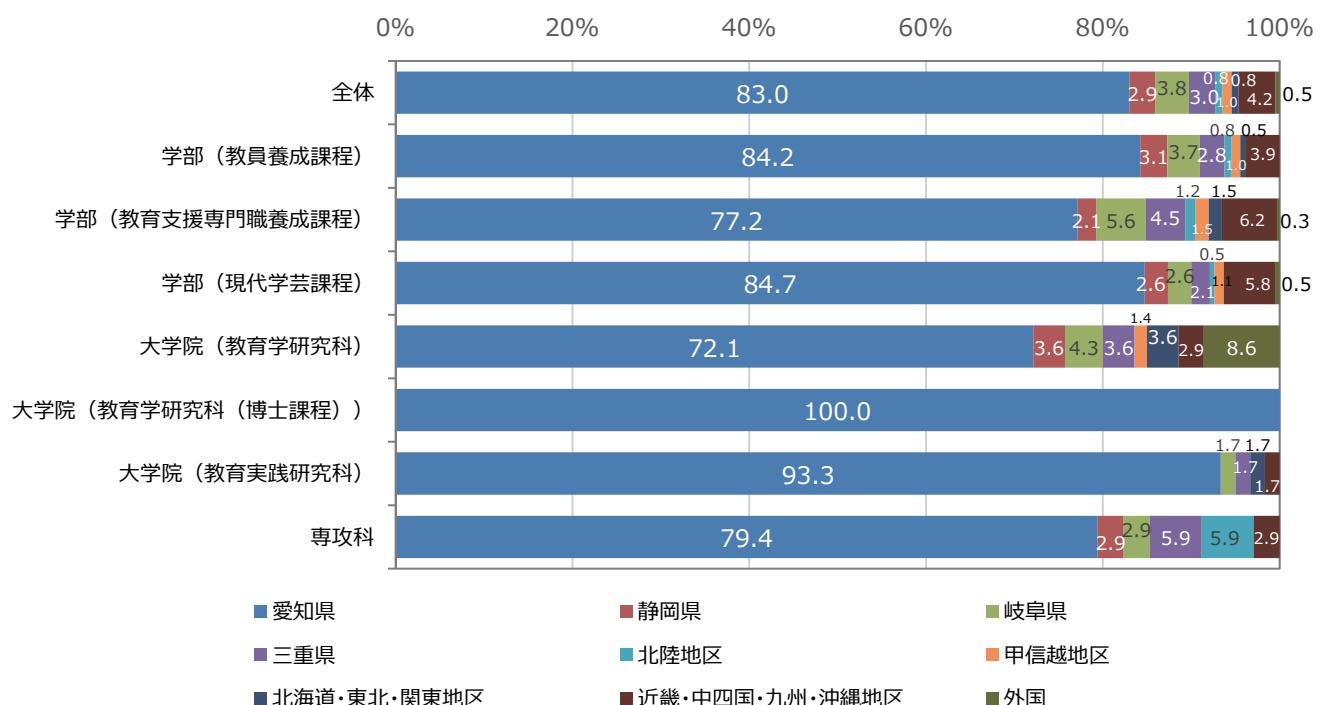
回答してくれた学生は、学部生3,810人に対して2,784人、大学院生が312人に対して202人、専攻科が34人に対して34人でした。専攻科はこれまでもほぼ100%の回収率で、こうした調査に大変協力的です。学部生、大学院生は、いずれも回収率が、前回平成27年度の調査時の、84.7%、77.2%に対して、73.0%、64.7%と10%強下回っています。これは今回、紙でのアンケート用紙の配布、回収に変えて、紙で依頼し、ウェブで入力後、確認の用紙を回収するという形を取ったためでしょう。アンケート調査のウェブ入力への切り替えは、授業中に教員が配布し回収するやり方に比べると、回収率の低下につながりがちですが、10%ほどの低下で済んだのは、提出済みの確認を紙の提出で行ったことの効果ではないかと思われます。

愛知教育大学の学生は、学部生は84.2%、教育支援専門職養成課程は、新設のためか全国でも珍しい課程であるためか、77.2%と愛知県出身者が多いとはいえ、西日本からの学生が6.2%いるなど、遠方からの学生も、3.9%の教員養成課程より多いです。北陸・甲信越・東北からの学生は少なく、前回同様、わずかに関西圏よりの大学であるが、基本的には地元密着型の大学である傾向は変わらないと言えるでしょう。

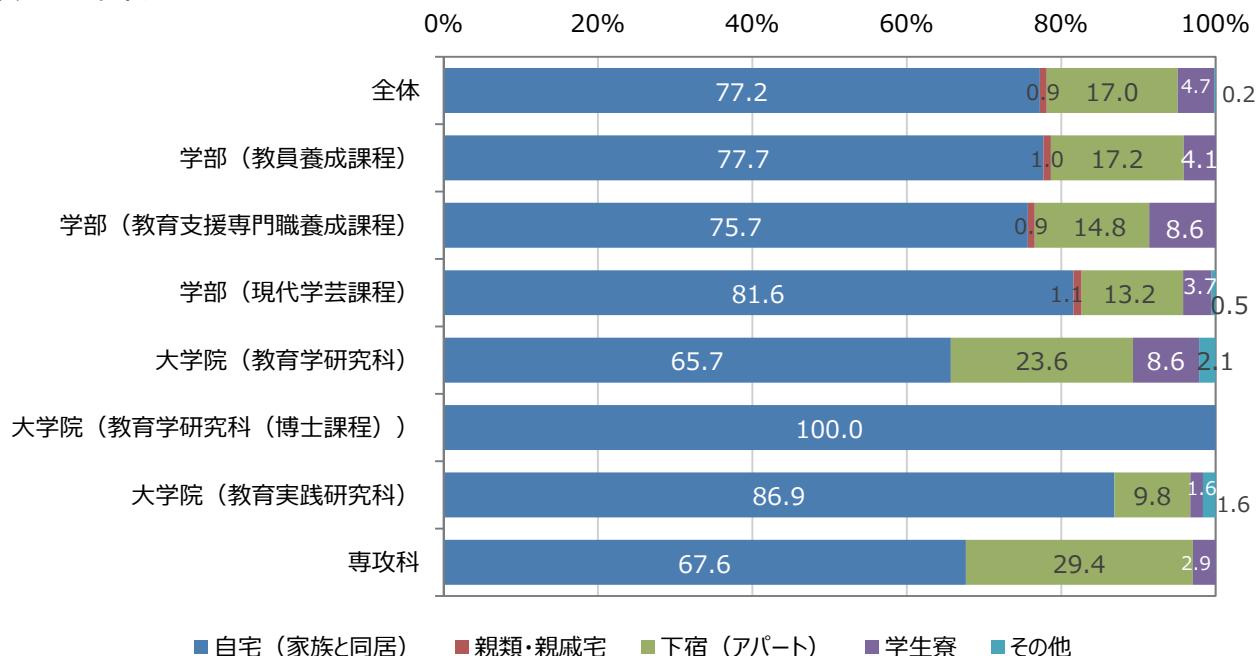
また自宅で家族と同居する学生が、前回同様7割以上(77.2%)であることも、前回とほぼ同じ傾向です。専攻科の学生の自宅生率が下がった(79.4%→67.6%)ことが、わずかに見られる変化です。

	学生数	回収数	回収率
全 体	4,156	3,020	72.7
学 部	3,810	2,784	73.1
大 学 院	312	202	64.7
専 攻 科	34	34	100.0

(家族の住所)



(あなたの住居)



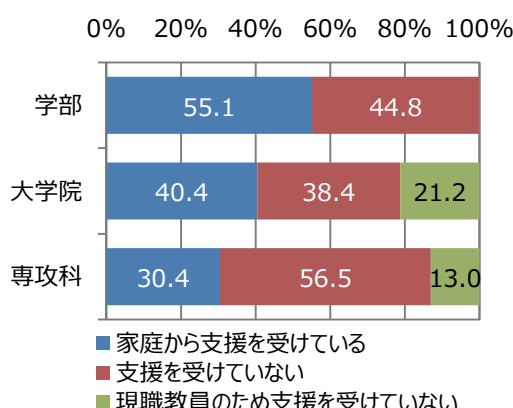
2) 経済状況

<家族からの支援がないと答える学生は増加している>

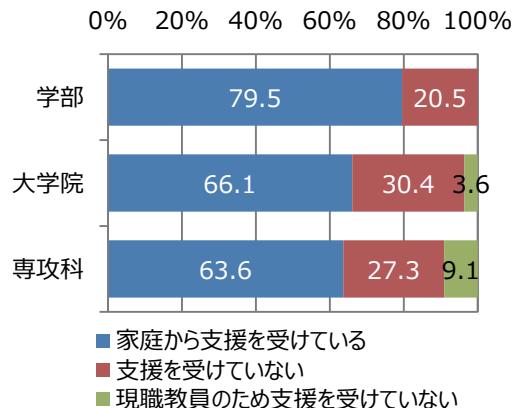
家族からの支援を受けていないと答える学生は、学部の自宅生で、40.8%から 44.8%へ、学部の自宅外の学生で 12.1%から 20.5%へと増加しています。主な授業料負担者が父母である、という回答はむしろ若干増えています（自宅の学部生で 84.8%から 87.2%へ）ので、現職教員の増加による効果と考えられます。

また一か月の支出額を聞くと、自宅外の学生は、5万円までの支出が学部では8割近くなのに対し、大学院では6割弱、専攻科では3割に満たない状況です。大学院の学生が、学部生に比べてかなり節約しているという事でしょうか。家庭からの支援を見ると、支援額はわずかに減少が見られます。最多の支援額は変わらず3~5万で3割ほどですが、第二に多い支援額5~7万円を援助する家庭は、学部生で28.5%から19.4%へと減少しています。

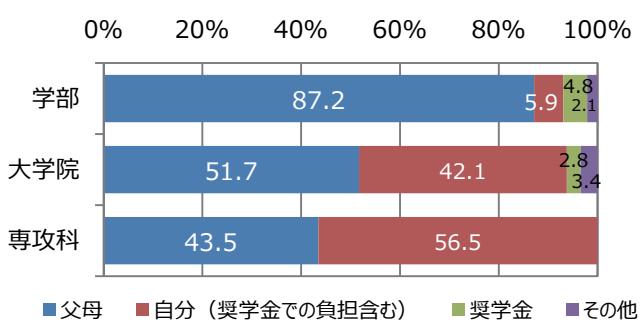
(家庭からの支援の状況・自宅生)



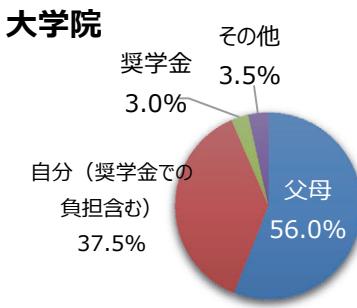
(家庭からの支援の状況・自宅外生)



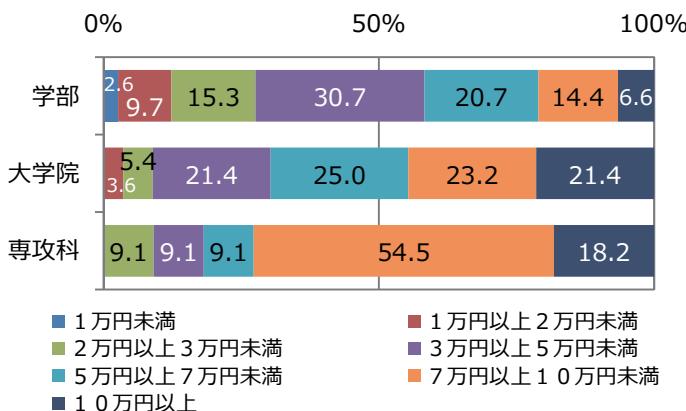
(主な授業料負担者・自宅生)



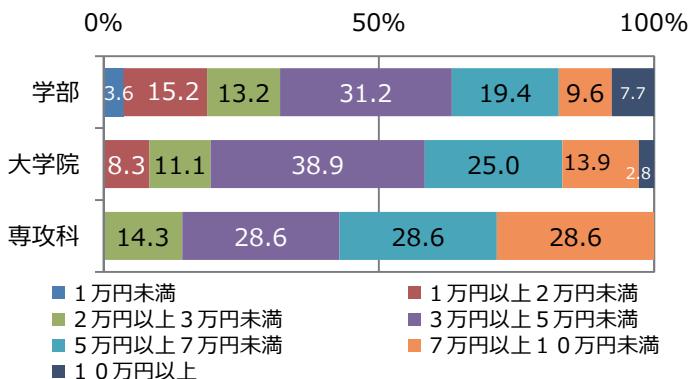
(主な授業料負担者)



(最近1ヶ月の支出額・自宅外生)



(家庭からの支援月額・自宅外生)

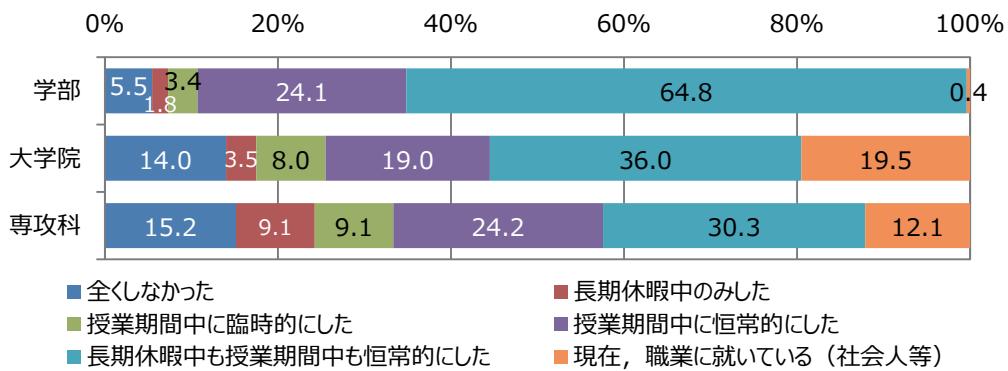


3) アルバイト

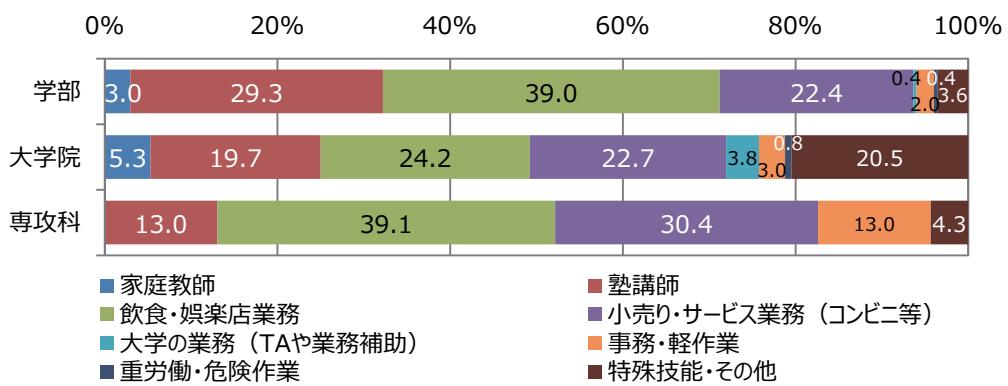
＜授業期間も長期休暇もアルバイトをする学生たち＞

ほとんどの学生は、恒常的にアルバイトをしています。授業期間も、夕方から常にアルバイトをするばかりでなく長期休暇もアルバイトをするという学生が、前回の調査よりも少しですが増加しています。その分アルバイトで稼ぐ額は増えています。月額7万円以上稼ぐ学生は、学部生で前回の16.8%から20.5%に増えました。22時以降の深夜勤は少し減少しましたが（学部生で3.9%から3.5%）、とはいえた一定数の学生は、アルバイトとはいえた大変厳しい労働を行っているように見えます。アルバイトの職種は、やはり塾講師が多いとはいえた2番人気で、一番多いのは飲食・娯楽店業務で、小売りサービス業とともにわずかですが増加傾向にあります。家庭教師や塾講師は、やはりわずかですが減少傾向で、少子化の影響で採用数が減少しているのか、一部報道があったように労働環境が厳しいのか、それともより多くの収入が見込める飲食や小売り業に学生の選択が移行しているのか判断に迷うところです。

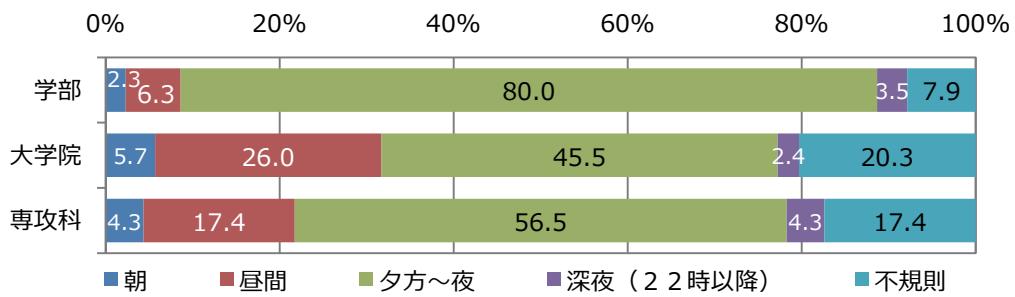
(アルバイトの就労状況は)



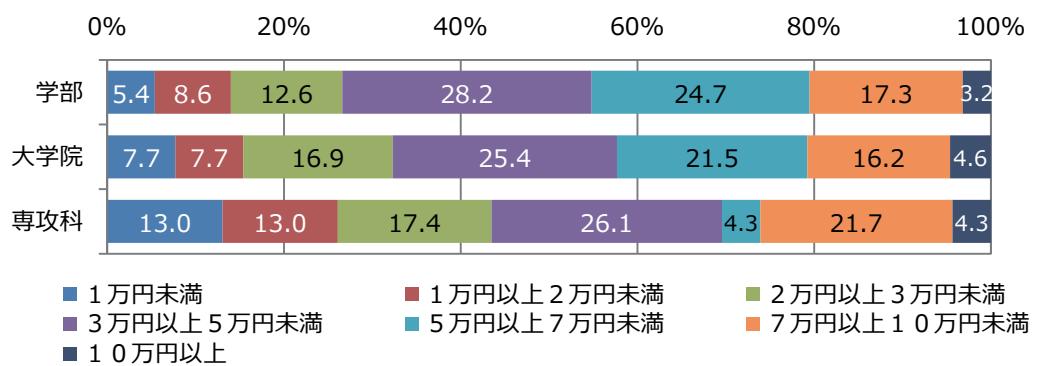
(主なアルバイトの職種を1つ選んでください。)



(アルバイトの主な時間帯は)



(アルバイトによる最近1ヶ月の収入は)



4) 学生支援体制について

<教員との関係は学年が上がるにつれて深まっている>

ア. 指導教員を知っていますか

指導教員について、「知っている」と回答した学生は、学部で82%、大学院で94%に上り、前回の79%、92%から改善が見られました。1年生では、前回の65%から今回の72%へと、2年生で前回74%から今回78%へなど、いずれの学年も「知っている」割合が高まっています。

なお、学年の上昇にしたがって指導教員に対する認知度も高まっています。

イ. オフィスアワーを知っていますか

オフィスアワーについては、「知らない」と回答した学生は、学部で29%であり、前回の20%から増えています。「利用したことがある」と回答した学生は学部で15%であり、前回の16%とほぼ変化がありません。学年別にみると、「利用したことがある」と回答した4年生は、前回の33%に対して、今回は24%と減少しました。

オフィスアワーについての認知度を高める必要があると思われます。

ウ. 教員と話す機会はありますか

教員と話す機会については、「よくある」「まあまあある」と回答した学生は、学部で49%であり、前回の46%から多少の改善が見られています。ただし、「ない」「ほとんどない」と回答した1年生が前回の33%から今回は38%となっています。初年次の段階で教員との交流の機会がさらに増えることが望まれます。

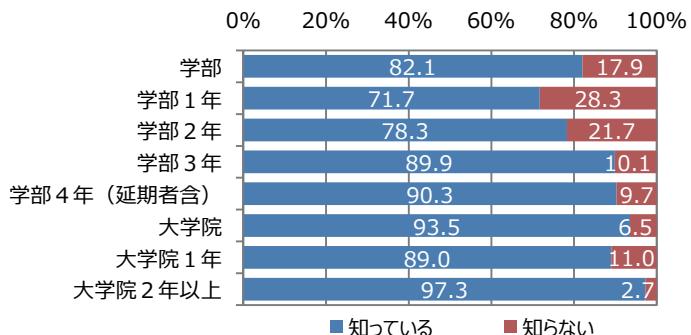
なお、全体的な傾向としては、1年生27%、2年生39%、3年生59%、4年生74%、大学院91%と、学年が上がるにつれて教員と話す機会が高まっています。

エ. 教員と定期的な面談を希望しますか

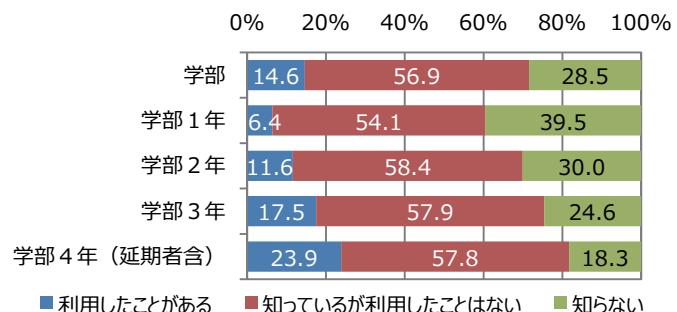
教員との定期的な面談を「希望する」と回答した学生は、学部で6%、大学院で26%でした。このことから、多くの学生は教員との定期的な面談を希望している訳ではないようです。

「教員との関係」について、ウで見てきたように学年が上がるにつれて交流の機会が増えていくことが分かります。今回の調査では、指導教員に対する認知度や教員と話す機会について前回の調査に比べて改善が見られました。一方、オフィスアワーについての認知度を高め、教員との面談を希望する学生や大学院生への取り組みが必要と思われます。

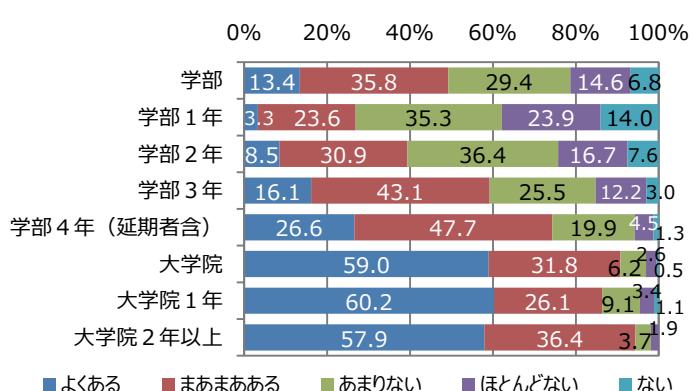
(指導教員を知っていますか)



(オフィスアワーを知っていますか)



(本学の教員と話す機会はありますか)



(教員との交流を希望しますか)

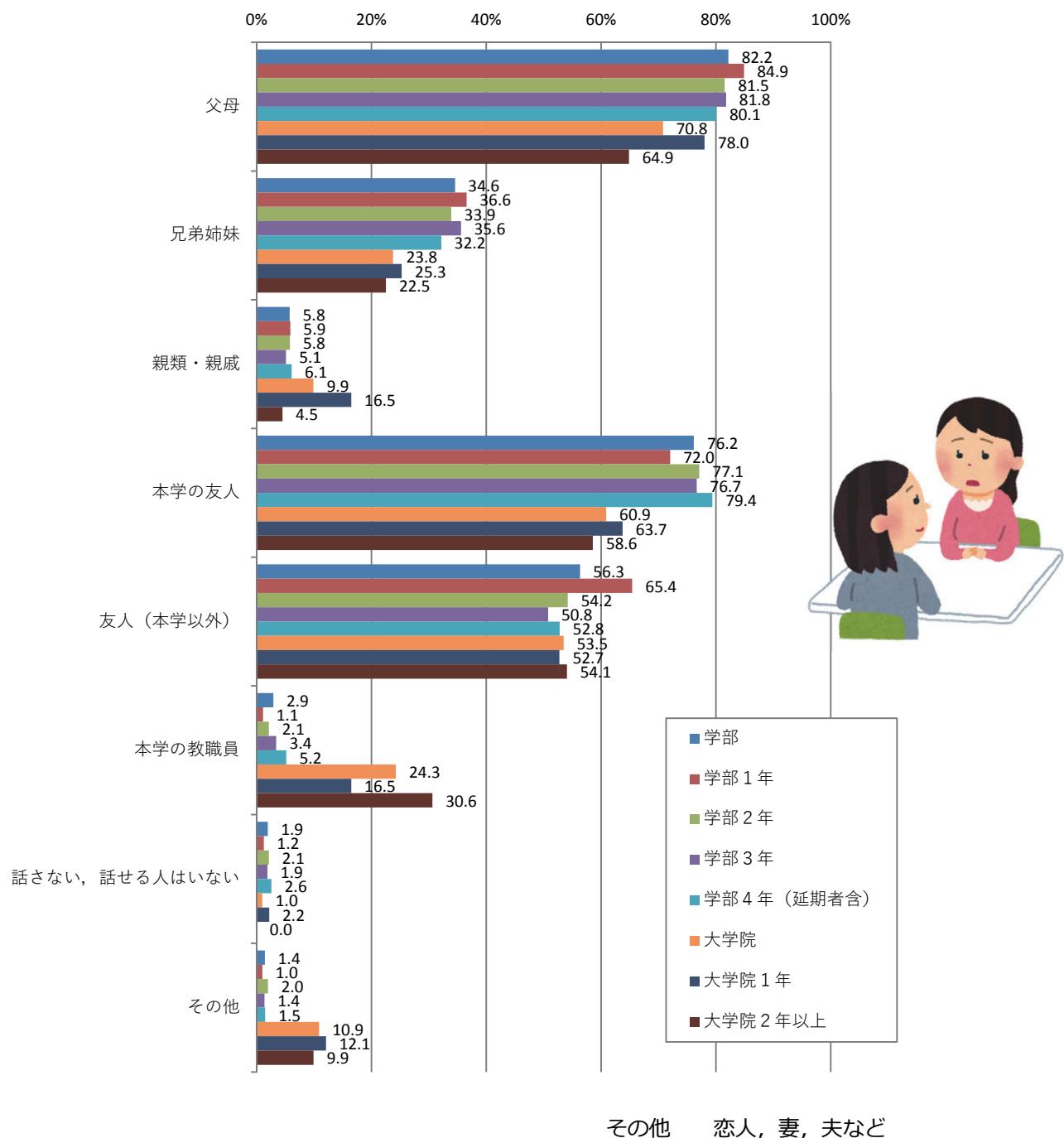


<相談相手は、父母と本学の友人。悩みは、就職・進路と勉学>

オ. あなたが学生生活や家庭のことを話せる人は誰ですか

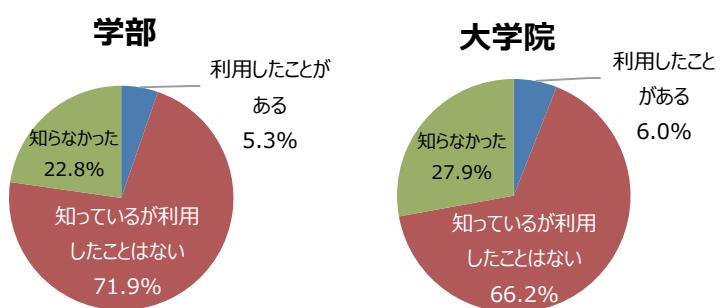
学生生活や家庭のことを話せる人については、学部では、「父母」が 82%と最も多く、次いで「本学の友人」の 76%、「本学以外の友人」56%となっており、前回の「本学の友人」が 72%、次いで「父母」65%、「本学以外の友人」44%という結果と比べ、「父母」という回答が大きく増えました。大学院についても、「父母」が 71%と最も多く、次いで「本学の友人」61%、「本学以外の友人」54%となっており、前回の「本学以外の友人」54%、「本学の友人」49%、「父母」46%という結果と比べ、「父母」の回答が増加しています。

(あなたが学生生活や家庭のことを話せる人は誰ですか　注) 最大3つまで)



力. 本学には、学生さんが様々な相談ができるところがあります。知っていますか。

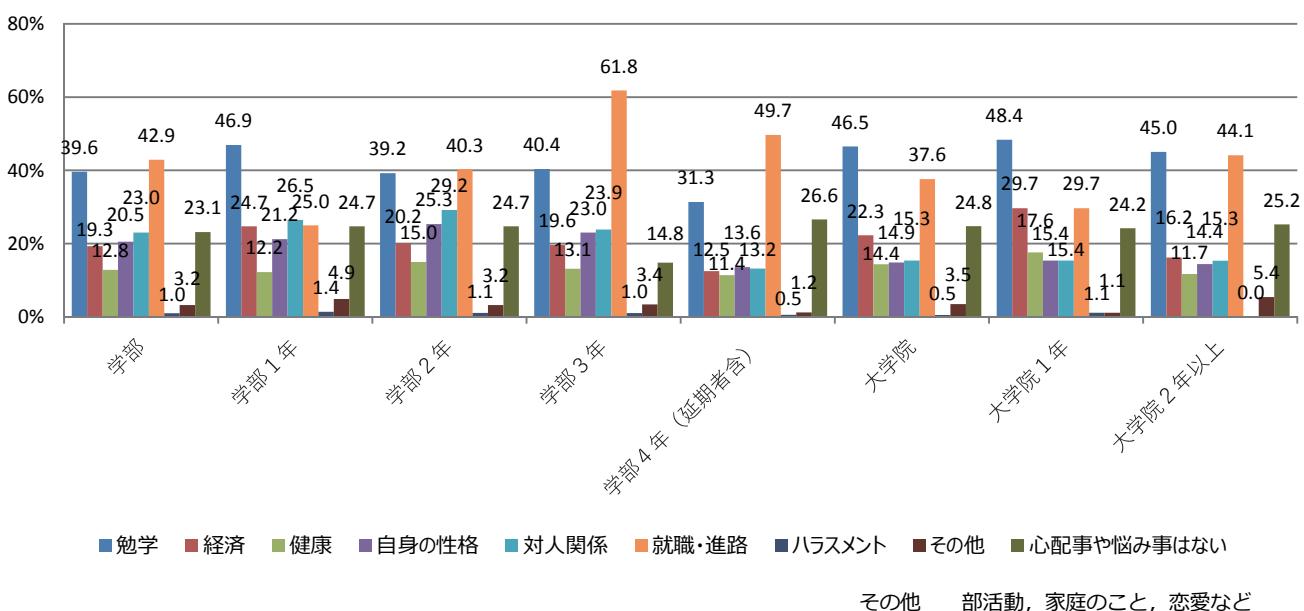
学内での相談のできる場所については、「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」を合わせると、学部で 77%、大学院で 72%となっています。これは、前回の学部 58%の結果と比べて多くなっています。



キ. 現在、抱えている心配事や悩みはありますか

現在抱えている心配事や悩みについては、「就職・進路」が学部で 43%と最も多く、次いで「勉学」の 40%、「対人関係」の 23%となっており、前回と同様の結果となっています。また、大学院では、「勉学」が 47%と最も多く、次いで「就職・進路」38%となっています。学部 1~3 年生では、「対人関係」「自身の性格」が相対的に高くなっています。

(現在、抱えている心配事や悩みはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。)



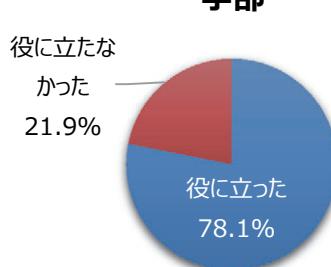
ク. 本学入学時、大学生活を順調に開始するために各種の入学ガイダンスや交流会等が役に立ちましたか

入学時の大学生活の開始について、学部で 78%の学生が入学ガイダンスや交流会等が「役に立った」と回答しており、前回の 94%から少なくなりました。「役に立たなかった」と回答した理由には、「あまり覚えていないから」「参加しなかったから」「資料を読めば分かるから」などがありました。

このように、学生が抱える悩みは、将来的な「就職・進路」と、今現在の「勉学」が中心であることが分かります。今回の調査では学部・大学院のいずれも、相談相手は「父母」が最も多く、次いで「本学の友人」という結果で前回とは異なった傾向となっており、現在の状況が表れているものと考えられます。

(本学入学時、各種の入学ガイダンスや交流会等により大学生活を順調に開始できましたか)

学部



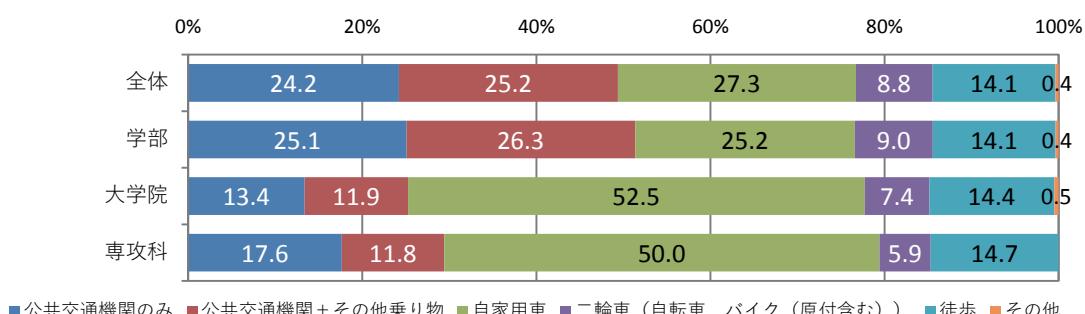
5) 通学状況

<通学は公共交通機関利用者がほぼ半数。通学時間は60分以上67%>

本学の通学は、自宅生が77%であることから、どうしても遠方となり、公共交通機関により通学する者が全体の5割と多いことが特徴です。自宅生のうち、公共交通機関だけでは通学できないものも3割ほどあり、本学の立地が交通の便がよくないことに加えて、自宅の場所も公共交通機関へのアクセスが困難な学生も多いことが予想されます。自家用車の利用が27%で、前回の25%から少し増加しており、交通安全が懸念されます。通学時間は、90分を超えるものが自宅生で3割以上に上り、通学について不便を感じていることとして「通学時間」と回答した割合も3割以上で最も多くなっています。また、通学について不便を感じていることの自由記述欄には、駐車場に関する記述が4割、バスに関する記述が2割ほど見られました。

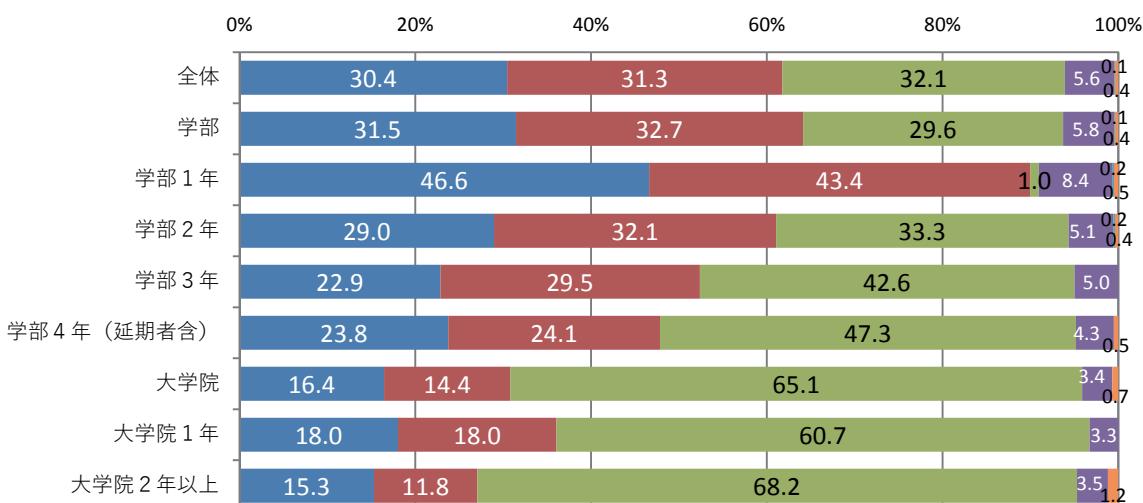
自宅生で大学に来る際下車する駅については、約8割が知立駅を利用している一方、豊明駅を利用するという回答が14%に上っていることが分かります。

(通学方法は)



■公共交通機関のみ ■公共交通機関+その他乗り物 ■自家用車 ■二輪車（自転車、バイク（原付含む）） ■徒歩 ■その他

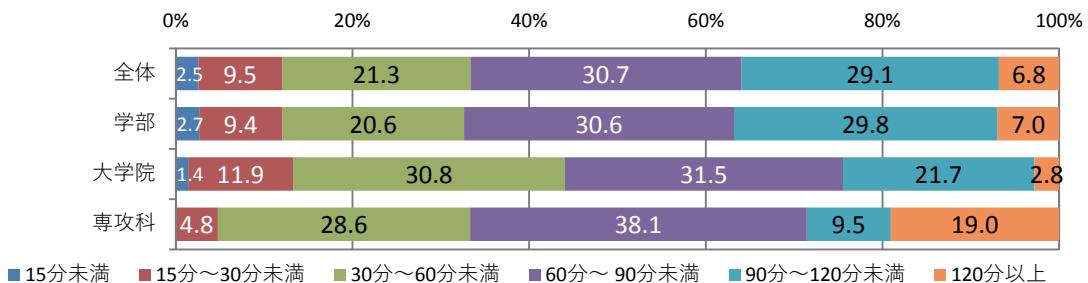
(通学方法は) [自宅生]



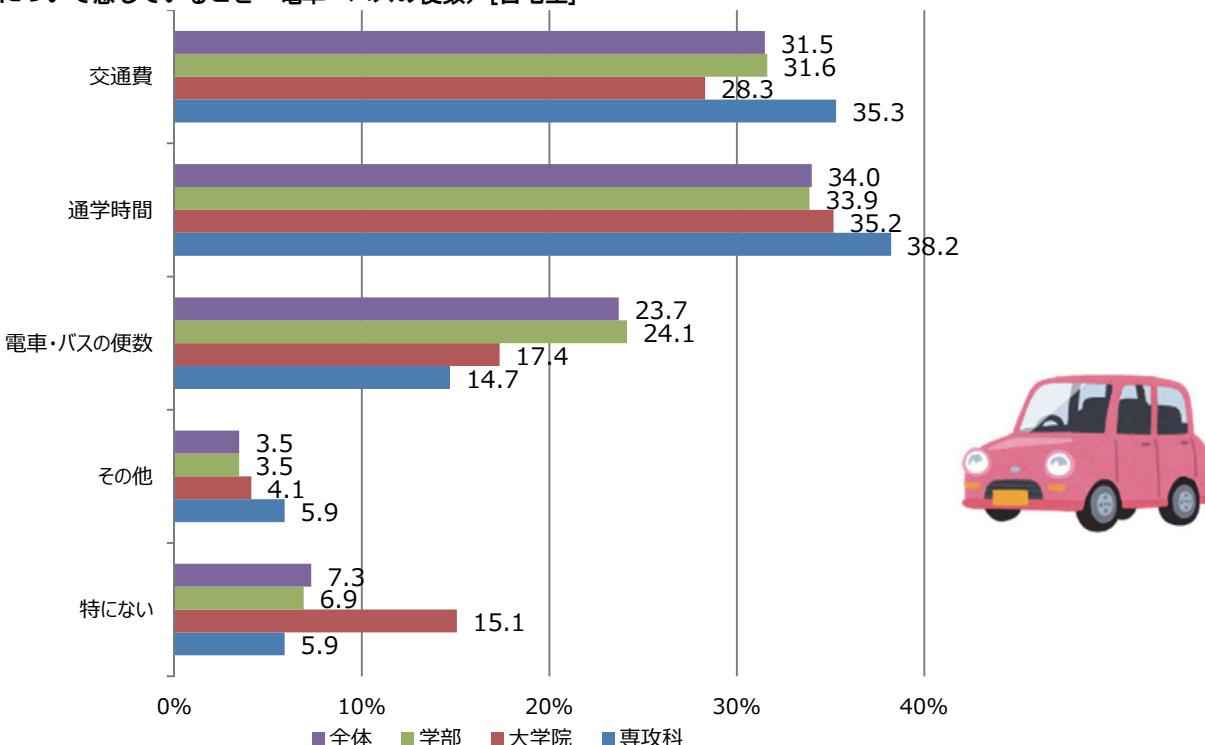
■公共交通機関のみ ■公共交通機関+その他乗り物 ■自家用車 ■二輪車（自転車、バイク（原付含む）） ■徒歩 ■その他



(通学時間はどのくらいですか) [自宅生]



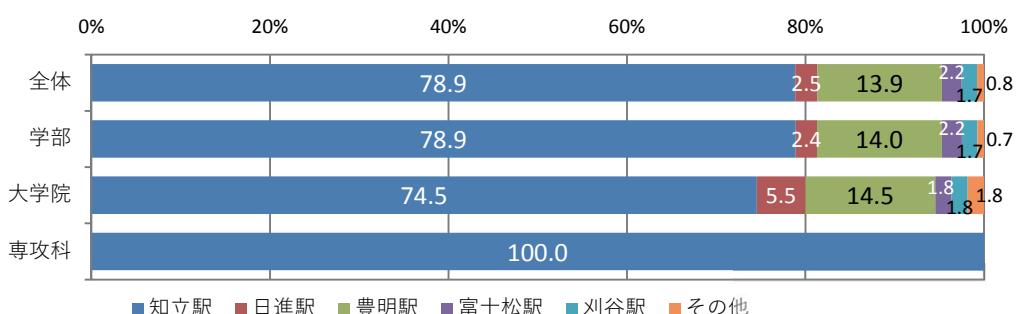
(通学について感じていること—電車・バスの便数) [自宅生]



その他

- 「学内の駐車場が少ない」「駐車場が空いていない」など駐車場に関するこ
- 「バスの運賃が高い」「バスが混雑する」などバスに関するこ
- 「最寄り駅が遠い」「交通渋滞」「坂道が多い」など立地に関するこ

(大学に来る際に下車する駅は・自宅生)



駐輪場



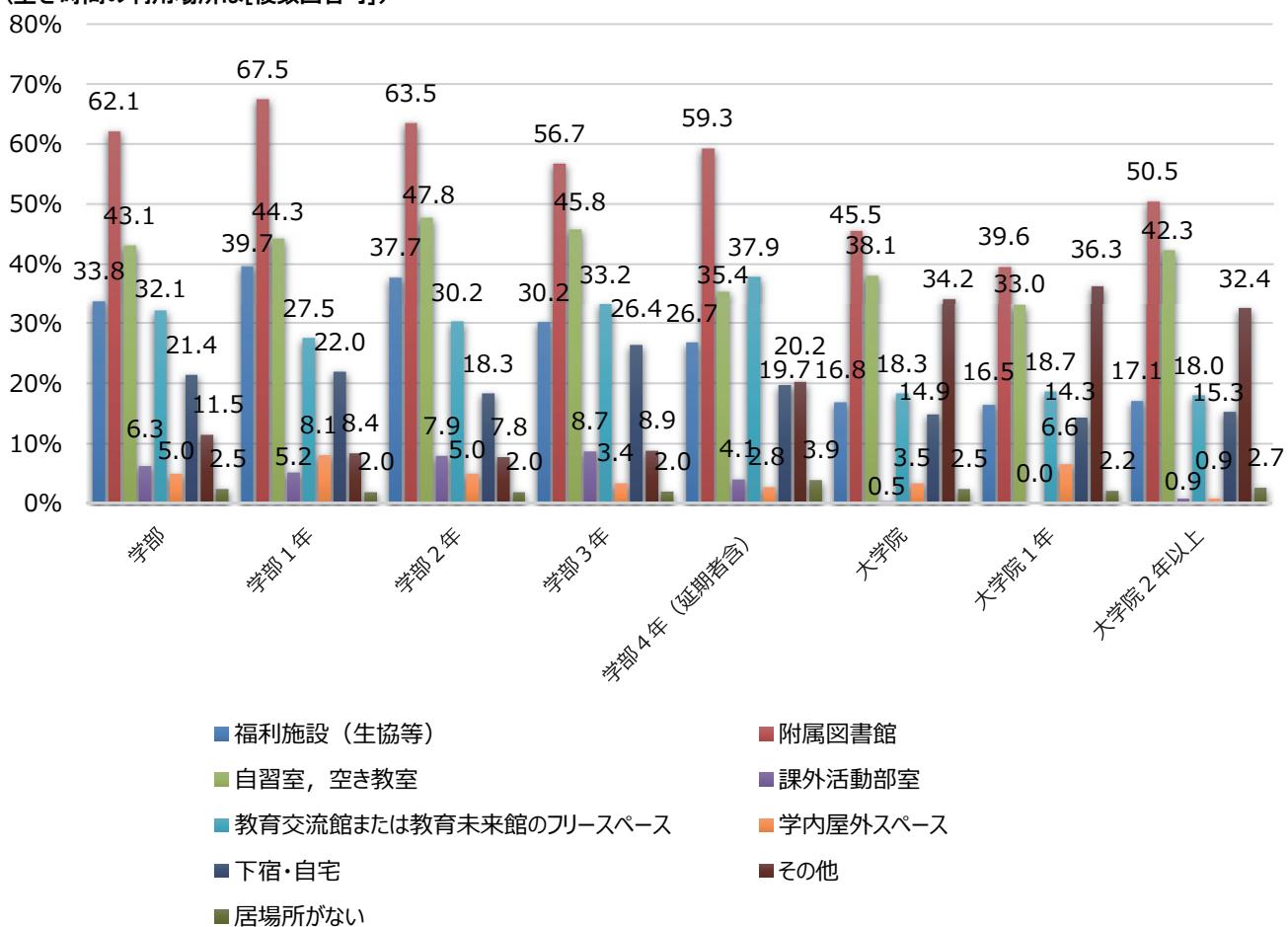
6) 大学の施設利用、居場所

<学内の居場所は、リニューアルした附属図書館>

ア. 空き時間の利用場所は

空き時間の利用場所については、学部で「附属図書館」が 62%と最も多く、「自習室、空き教室」の 43%、「福利施設」の 34%と続いています。大学院でも「附属図書館」が 46%と最も多く、「自習室、空き教室」38%、「その他」34%と続いています。前回の調査で「附属図書館」は学部で 38%、大学院で 26%でした。2017 年度に「附属図書館」がリニューアルオープンされたことによって、いずれの学年も利用されるようになっています。

(空き時間の利用場所は[複数回答可])



その他 研究室、音楽棟(練習室)、院生室など



附属図書館

7) 授業のある日の時間の使い方



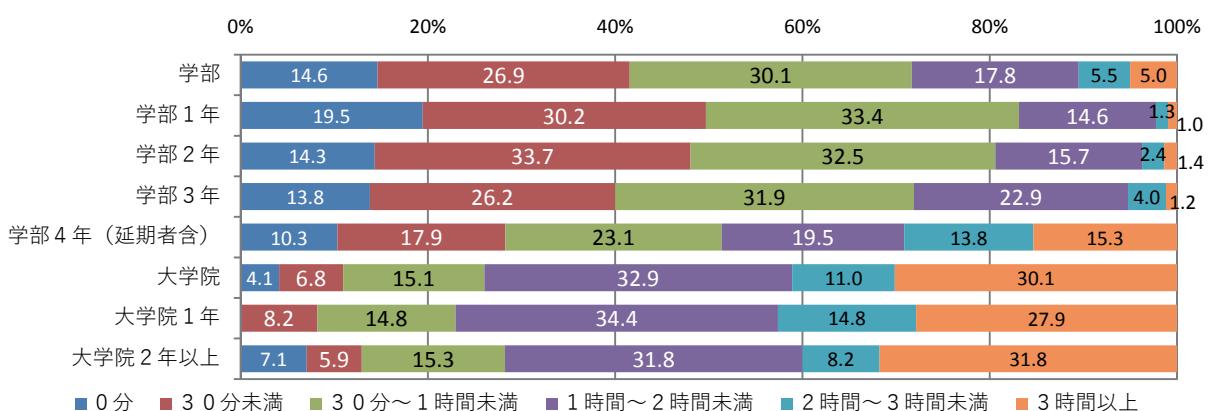
＜学習時間 1 時間未満の学生が増加＞

ア. 授業以外の学習時間はどのくらいですか

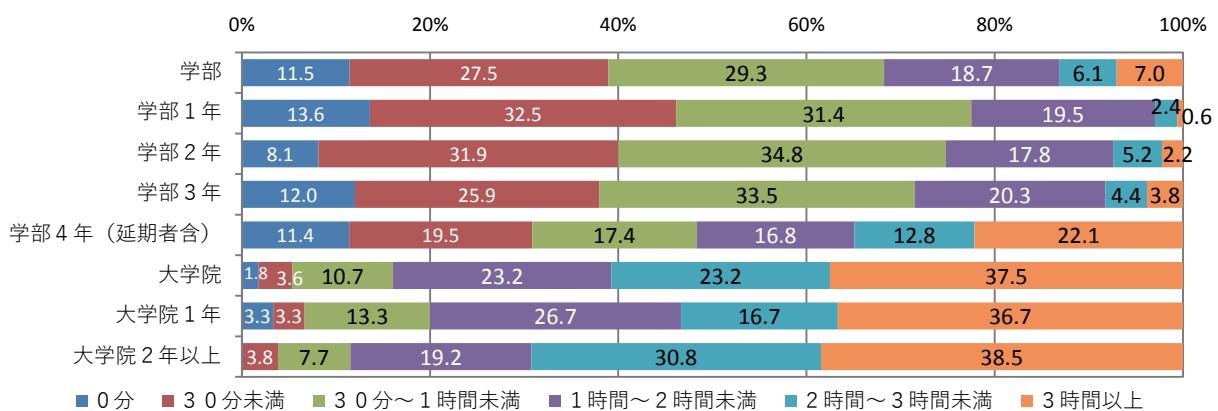
授業以外での学習時間については、30分～1時間未満が、学部では30.1%と最も多く、次いで30分未満の26.9%となっています。しかも0分、30分未満、30分～1時間未満を合わせると、学部全体では自宅生で71.6%、下宿生で68.3%に上ります。つまり本学の3分の2以上の学部生が、授業以外の自主的な学習を1日1時間未満しかしていないのです。同じ数値は前回では67.7%でしたから、この傾向は全体として増加傾向にあり、自宅生に限って言えば4年間で3.9ポイントも上昇しています。前回は30分～1時間未満と1時間～2時間未満の回答が多数でしたが、今回調査では30分～1時間未満と30分未満へと下方にスライドしています。幸いにして、「自主学習が1日1時間未満の学生」の割合は学年が進むにつれて減少していくようです。それでもなお4年生の段階でそうした学生が半数を占めているのです。教師を目指す本学学生としてはかなり心配な傾向です。次項で分析するように、その背景には経済的な要因も強く働いているようです。

大学院生では、自宅生で74.1%、下宿生で83.9%が1日1時間以上の自主学習に取り組み、1日3時間以上の自主学習に取り組む大学院生も自宅生で30.1%、下宿生で37.5%に達しています。これは前回と比べても遜色のない数値です。今後も学部生のよい手本としてがんばってほしいものです。

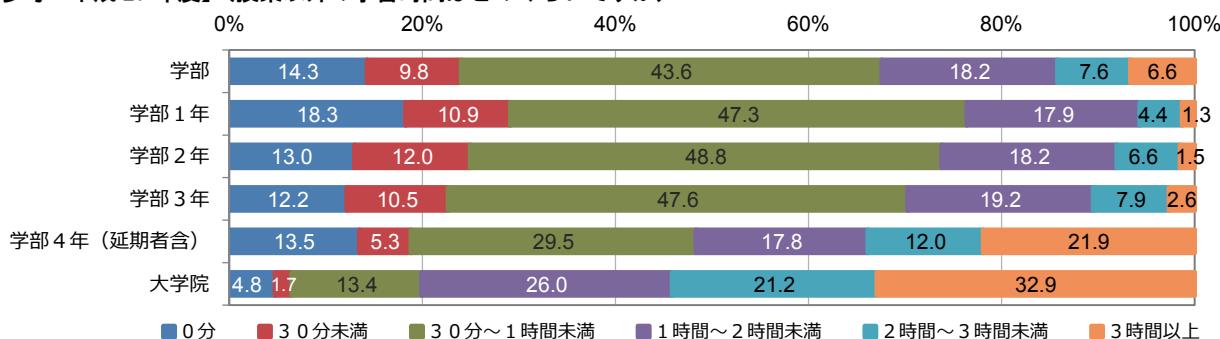
(授業以外の学習時間はどのくらいですか・自宅生)



(授業以外の学習時間はどのくらいですか・自宅外生)



【参考：平成 27 年度】（授業以外の学習時間はどのくらいですか）



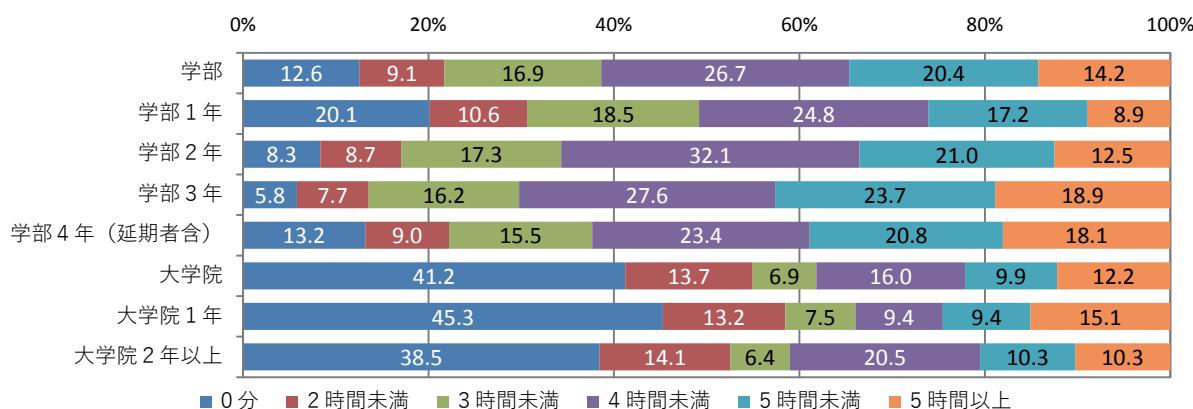
<毎日 5 時間以上働く学生も！>

イ. アルバイトの時間はどのくらいですか

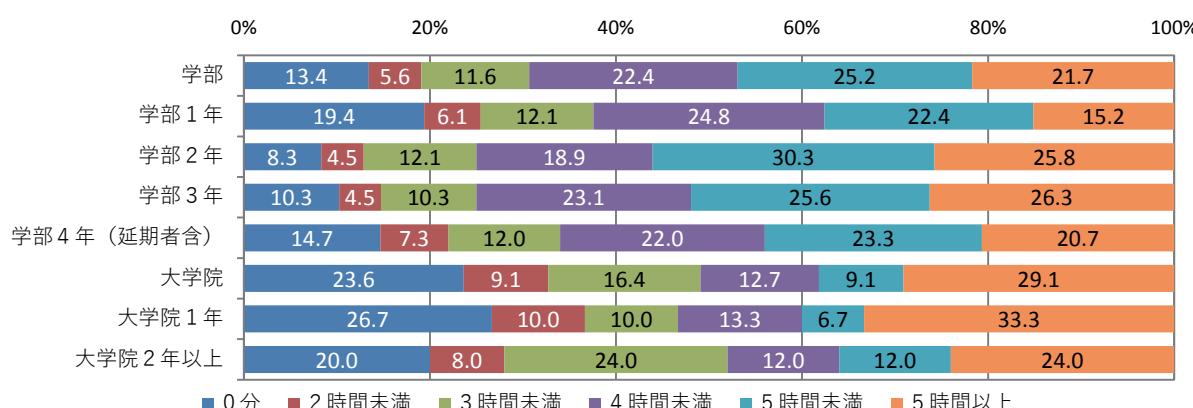
1 日に 3 時間以上アルバイトに費やす学部生が自宅生で 61.3%、下宿生で 69.3% もいます。前回は学部全体で 59.6% でしたから、これも増加傾向にあります。アルバイトの時間が増えるほど、自学自習に割くことができる時間は目減りしていきます。背景には、経済支援がない、あるいは少ない学部生が増加していることがあるでしょう。とりわけ深刻なのは、下宿生の 5 人に 1 人が毎日 5 時間以上のアルバイトをしなければならないという状況です。このような状況下では、自学自習のための時間を確保することは極めて困難です。

大学院生では自宅生の半数近く、下宿生の 4 人に 1 人がアルバイトをせずに生活をしています。しかし一方で大学院生でも自宅生で 38.1%、下宿生で 50.9% が毎日 3 時間以上のアルバイトをし、下宿生の 3 人に 1 人が毎日 5 時間以上アルバイトをしています。このことを考えるなら、アルバイトをしない大学院生も、経済的に余裕があつてのことと考えるより、研究時間を確保するための断腸の判断と理解すべきかもしれません。

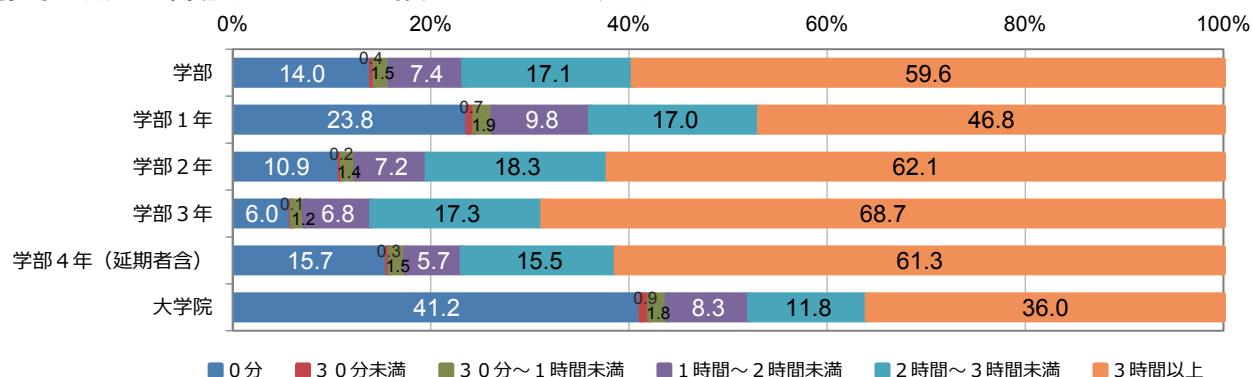
（アルバイト時間はどのくらいですか・自宅生）



（アルバイト時間はどのくらいですか・自宅外生）



【参考：平成 27 年度】（アルバイトの時間はどのくらいですか）



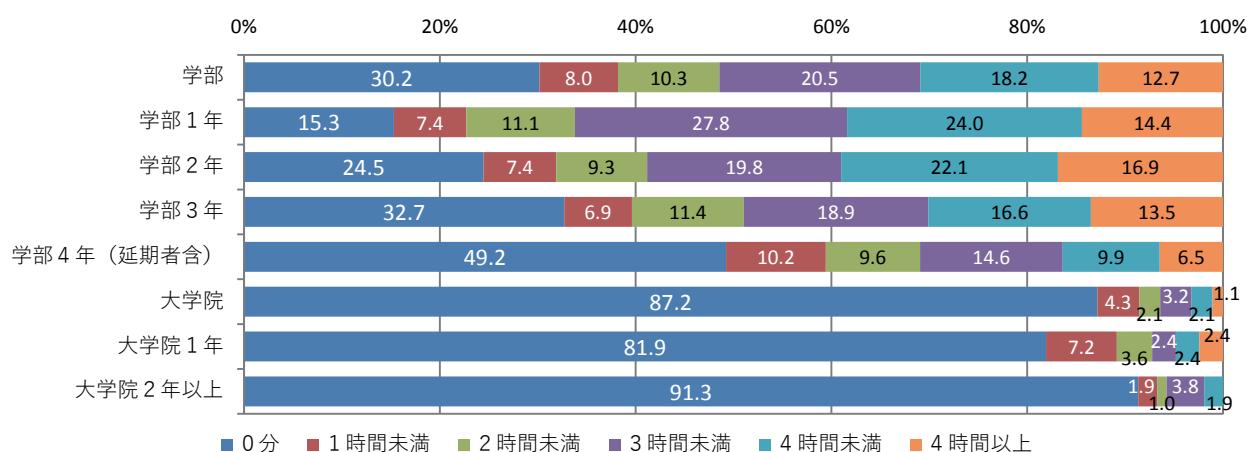
＜サークル活動の短時間化・不参加化傾向が進む＞

ウ. クラブ・サークルの時間はどのくらいですか

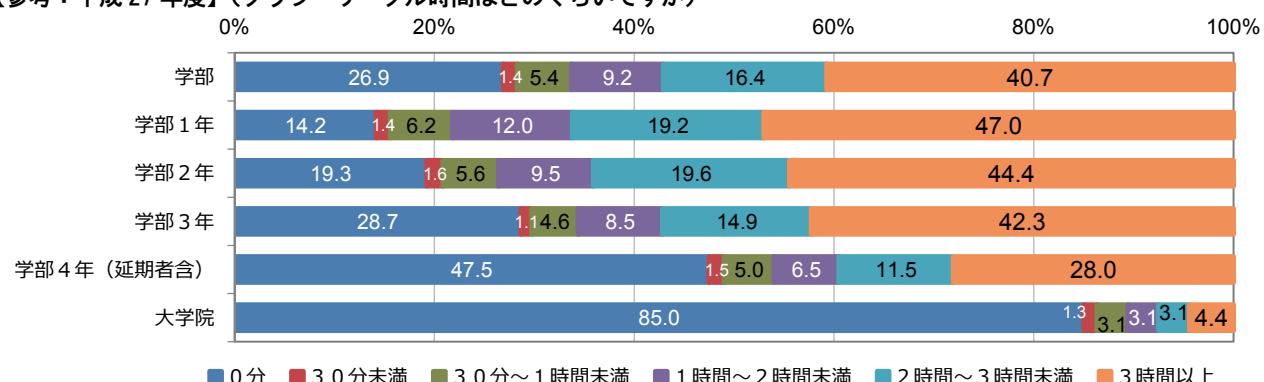
1 日の内でクラブ・サークルに費やす時間が 3 時間以上と答えた学部生は、前回調査の 40.7% から今回は 30.9% に減少しました。一方で 0 分と答えた学部生も今回調査で 30.2%、前回は 26.9% でしたので、サークル活動の短時間化・不参加化傾向が進んでいるようです。学年が進むうちにサークルに 3 時間以上参加する学生が減り、サークルに参加しない学生が増加するという全体的傾向は、前回でも同様でした。

大学院生では 87.2% がサークル活動に参加していません。この傾向も前回と共通しています。クラブ・サークルは学部生主体の活動と言えるでしょう。

（クラブ・サークル時間はどのくらいですか）



【参考：平成 27 年度】（クラブ・サークル時間はどのくらいですか）

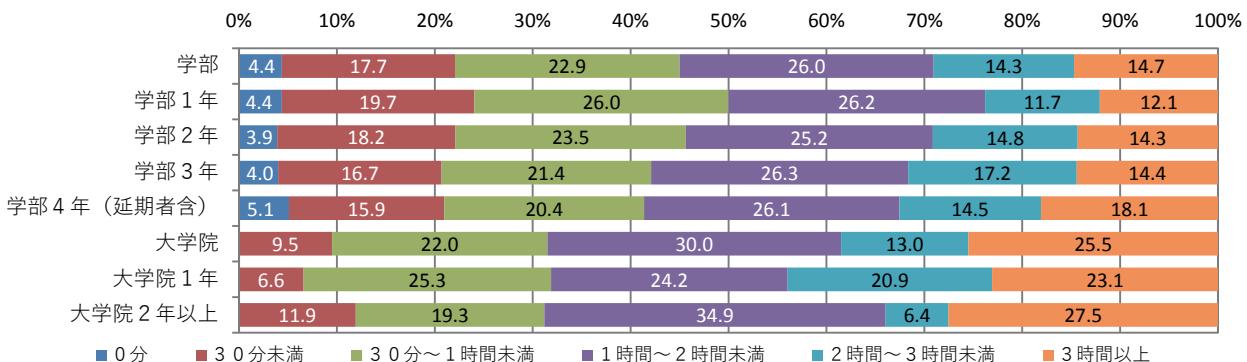


<学部生はSNS・ゲーム派、大学院生は研究派?>

エ. パソコンやスマホ、タブレット端末の使用時間はどのくらいですか

パソコンやスマホ、タブレットなどの情報端末を利用する時間自体は、学部生、大学院生ともに最終学年で最も長時間となります。これは卒業研究や就職活動のための利用が増した結果でしょう。学部生で14.7%、大学院生で25.5%が3時間以上利用すると答えていることも、大学院生により長時間利用者が多いことも、いずれも学習や研究との関連を考えてよさそうです。

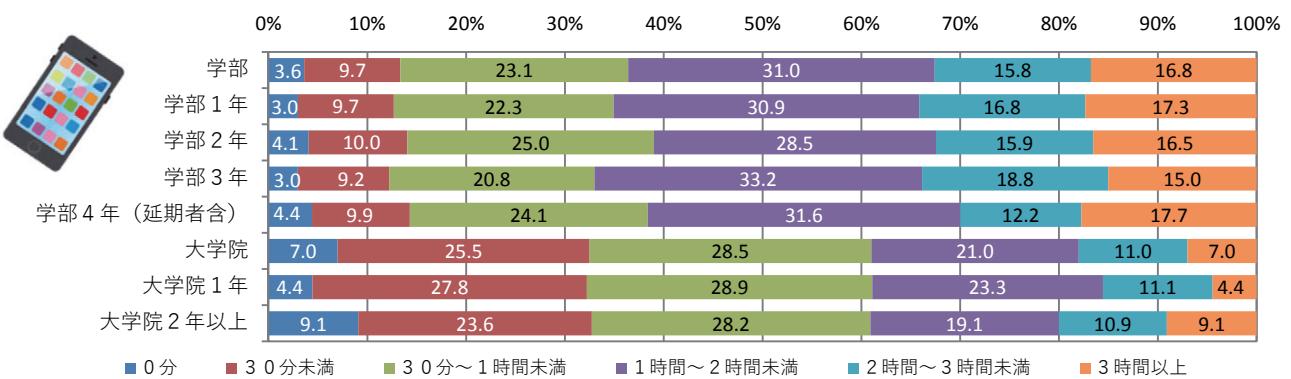
(パソコンやスマホ、タブレット端末の利用時間はどのくらいですか (SNSや娯楽ゲームを除く))



オ. SNSや娯楽ゲームの利用時間はどのくらいですか

SNSやゲームの利用時間は、学部生では1時間～2時間未満が、大学院生では30分～1時間未満が最も多いようです。毎日1時間以上利用する学生の割合は、学部で63.6%、大学院で39.0%、この割合は学年での変化はほとんどなく、SNSやゲームに対する学部生と大学院生との接し方の違いを示しているようです。

(SNS・娯楽ゲームの利用時間はどのくらいですか)



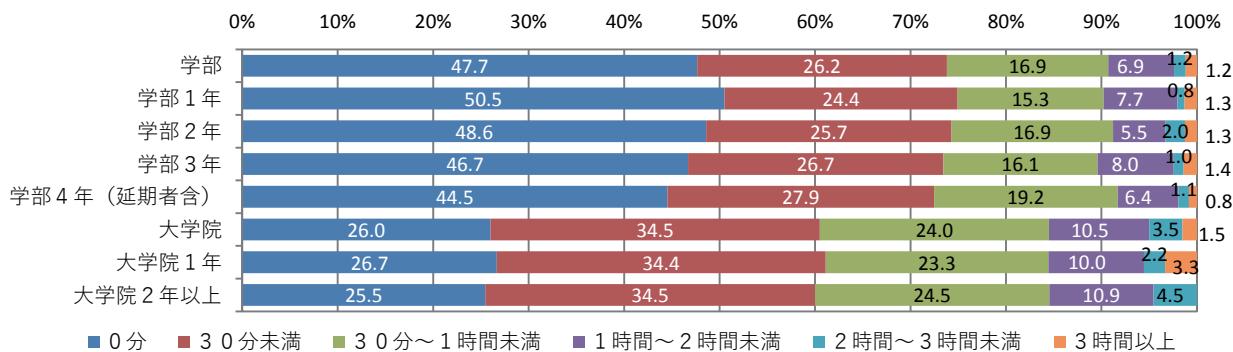
<「趣味が読書」は少数派>

カ. 趣味としての読書の時間はどのくらいですか

趣味としての読書時間については、学部生では全く読まない人が47.7%と最も多く、次いで30分未満が26.2%となっています。大学院生では全く読まない人こそ26.0%と学部生の半分ほどですが、30分未満が34.5%あり、趣味としての読書時間が30分に満たない学生の割合はいずれも6割を超えています。前回のデータと比較してみると、この傾向は強まりつつあるようです。とりわけ大学院では前回は0分、30分未満合わせて41.6%でしたから、実に18.4ポイントの上昇、趣味の世界での読書離れに拍車がかかっています。



(趣味としての読書の時間はどのくらいですか)

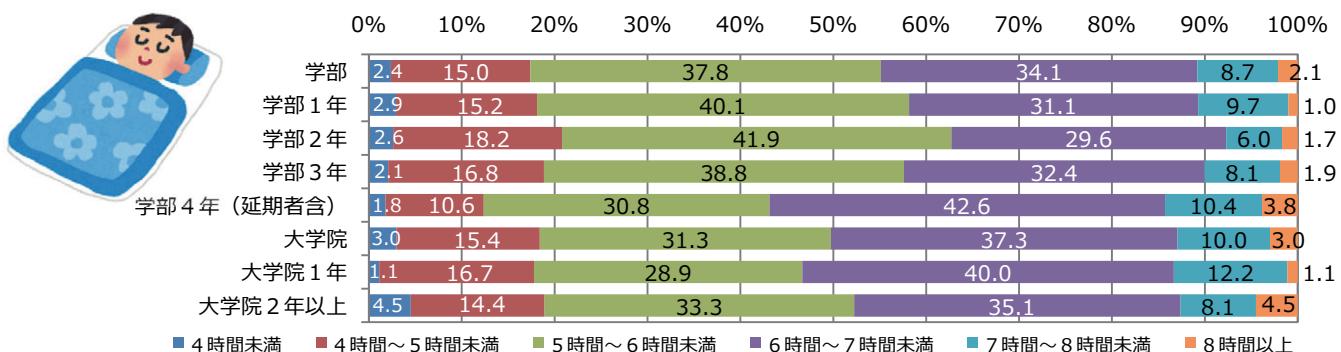


<半数の睡眠時間が6時間以下>

キ. 睡眠時間はどれくらいですか

健康に留意するならば、個人差はありますが 6～8 時間程度の睡眠が目安と言われています。本学の場合、学部生で 55.2%、大学院生で 49.7% の睡眠時間が 6 時間未満です。この数値は前回のデータと大きな差はありません。

(睡眠時間はどのくらいですか・全体)



<学務ネットに改善の余地あり>

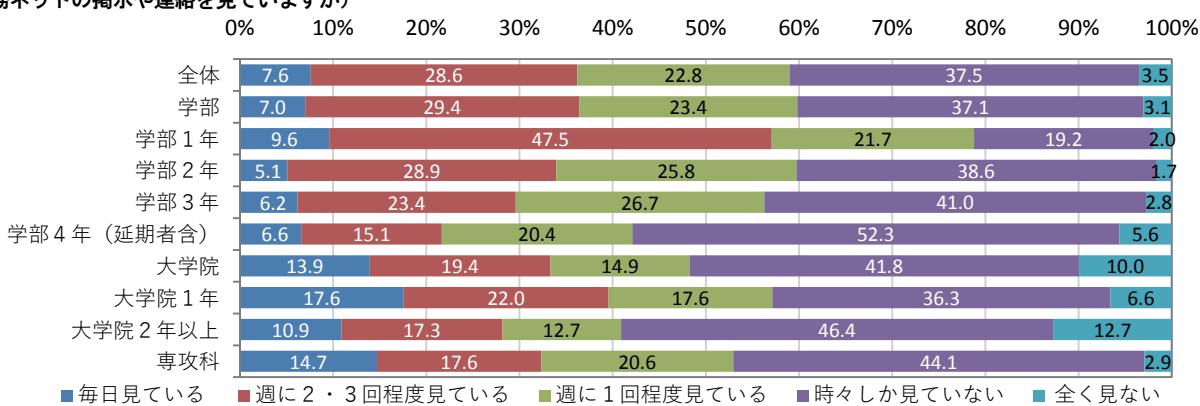
ア. 学務ネットの掲示や連絡を見ていますか

イ. 学務ネットの掲示や連絡を携帯・スマホに転送していますか

ウ. 学務ネットの掲示や連絡は学生生活に役立っていますか

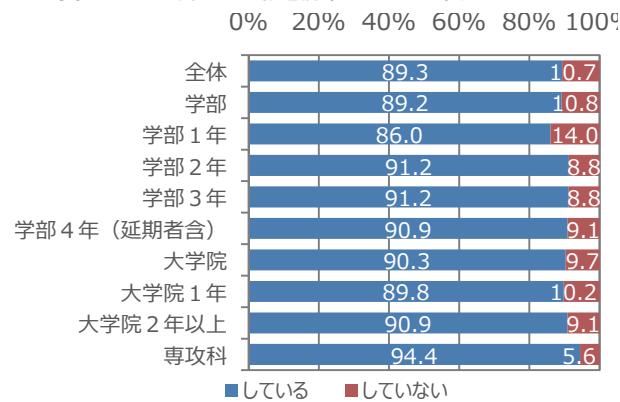
学部生の 88.8%、大学院生の 84.4% が、学務ネットの掲示や連絡が学生生活に役立っていると答えています。そして学部生の 89.3%、大学院生の 90.3% が学務ネットの掲示や連絡を携帯・スマホに転送しています。つまりほとんどの学生が、学務ネットの有用性を知っていて、閲覧環境も整えているようです。それなのに 41% の学生が、週に 1 回ほども学務ネットを見ていません。学部の 1 年生の頃は 78.8% が週に 1 度は閲覧する習慣を持っていたのだから、学務ネットが役に立つことを知っていてよく閲覧していた学生が、学年が上がるにつれて徐々に学務ネット離れをしていった結果と読むことが出来そうです。

(学務ネットの掲示や連絡を見ていますか)

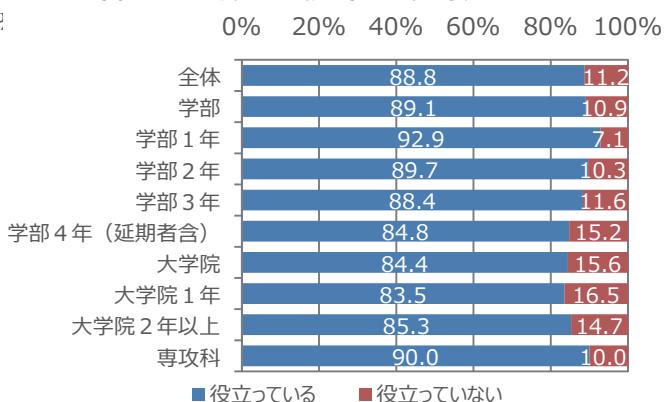


学務ネットに対する不満として、①スマートフォンでは添付ファイルが開けないこと、②自分にとって重要度の低い膨大な情報から重要度の高い情報を選別する手間が面倒なこと、③情報の通知が遅いこと、の3点が特に多いようです。これらが学務ネット離れの元凶といってよいでしょう。いずれもネット運営側の配慮で克服可能な問題です。早急の改善が望まれます。

(学務ネットの掲示や連絡を携帯・スマホに転送していますか)



(学務ネットの掲示や連絡は学生生活に役立っていますか)

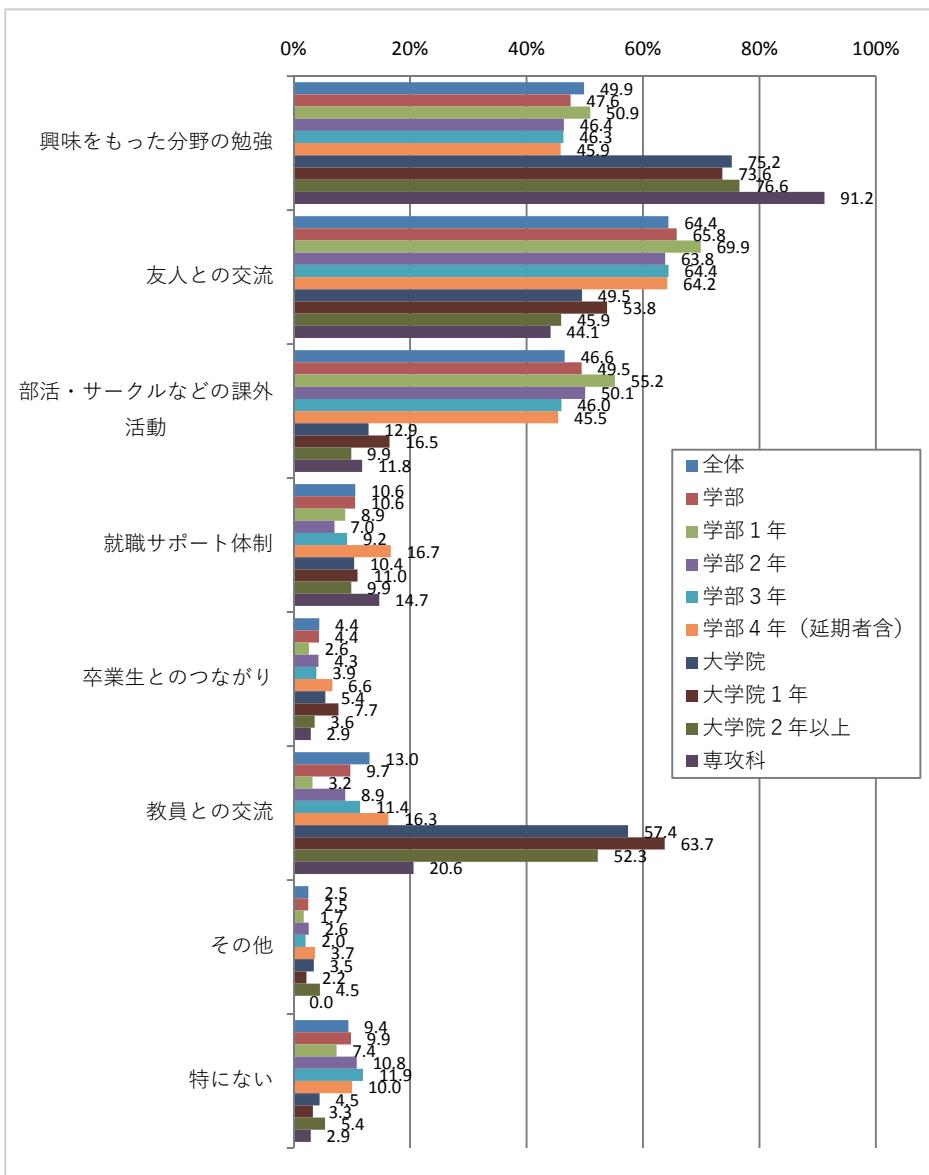


＜友人との交流、興味をもった分野の勉強＞

愛教大に入学して良かったと思う時はどのような時ですか

全学生を通して友人と交流を挙げた学生が最も多く、64.4%に達していました。これは教員養成を掲げる大学として、とても喜ばしいことです。

学部生と大学院生とを分けてみた場合、回答傾向はかなり異なります。学部生の場合は、友人との交流、部活・サークルなどの課外活動が上位を占め、これに興味をもった分野の勉強が続きます。大学院生の場合は、興味をもった分野の勉強、教員との交流が上位を占め、これに友人との交流が続きます。この差異は、学部生では友人関係の中にあった生活の中心が、大学院生では研究環境にシフトしていくことを示すものでしょう。

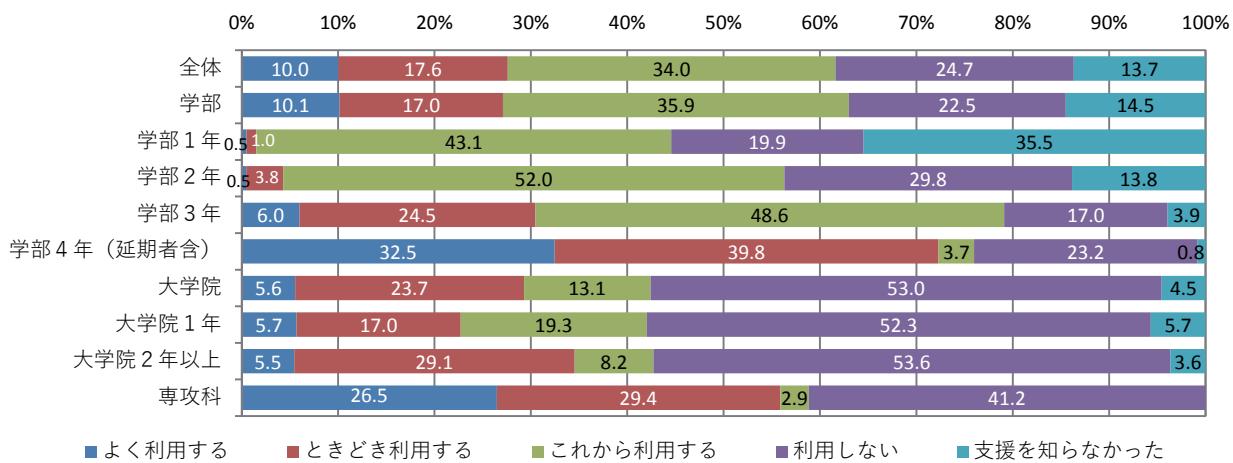


8) 就職活動の支援

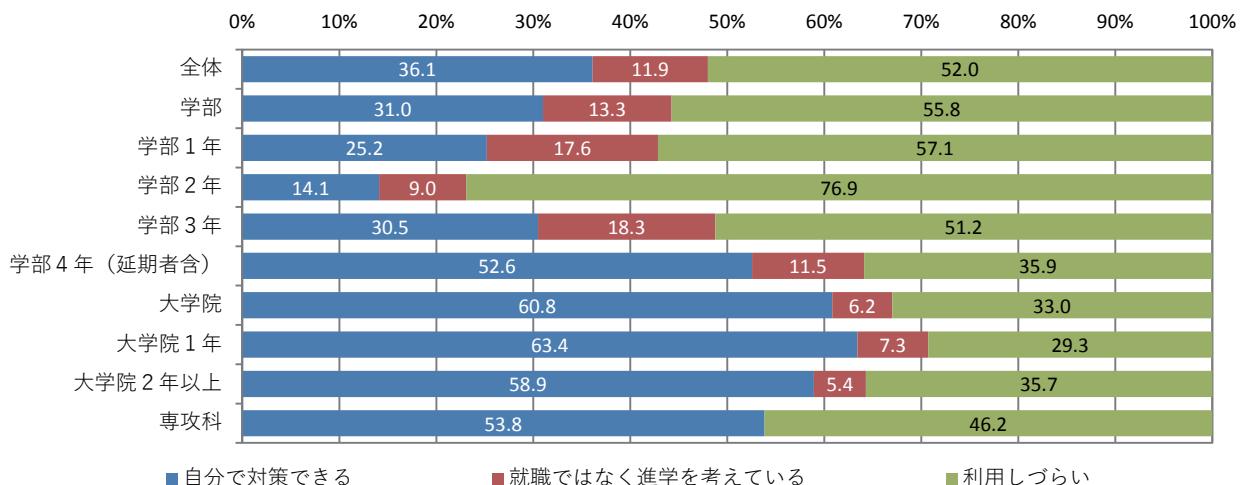


<キャリア支援の活用を>

ア. キャリア支援課による就職活動の支援（就職ガイダンス、講義、相談等）を利用していますか



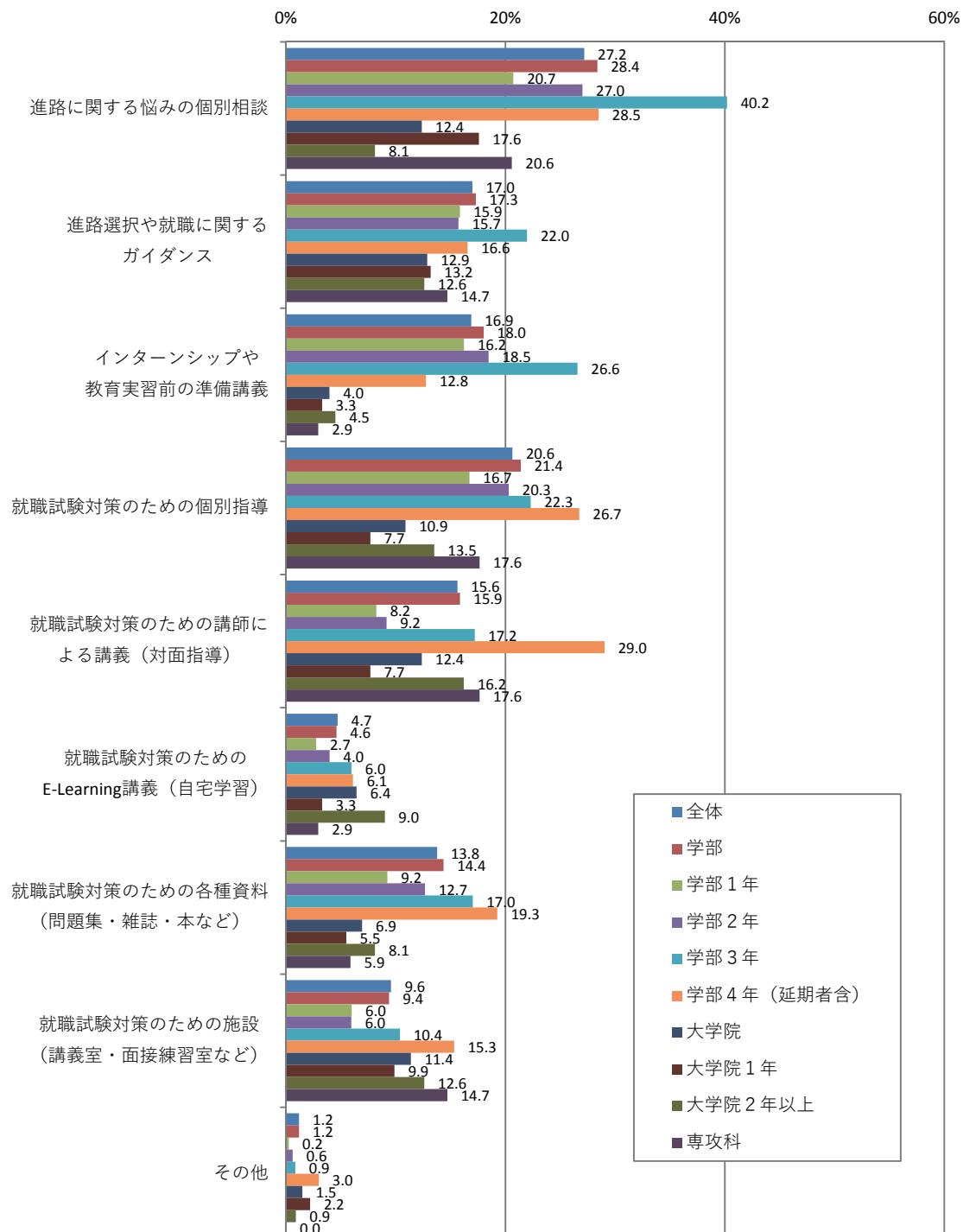
ウ. 就職活動の支援を利用しない理由は何ですか



キャリア支援課による就職活動の支援については、学部1年生では3人に1人が知らないようですが、学部3年生までには9割以上の学生が知っているようです。利用者は学部4年生で72.3%。前回調査時よりも数ポイント増えています。一方で利用しないと答えた学部生は3年生の17.0%から4年生の23.2%へと約6ポイント上昇していきます。そして大学院生の半数以上が利用しないと答えています。

利用しない理由として、学部生は55.8%が利用しづらさを挙げています。個別回答を見る限り、この利用しづらさは、就職活動支援の具体的なメニュー・利用方法を知らないことや、敷居の高さに起因しているようです。こうした経験からでしょうか、学部4年生の52.6%、大学院生の60.8%が自分で対策できるから、と答えています。キャリア支援課をあてにしない就職活動へと学生は徐々に移行していくようです。個別回答を見ると、小中学校教員以外への就職志望者（とりわけ心理・幼児教育関係）からの支援要望とのミスマッチもあるようです。実際には、本学は小中学校教員志望者以外へもさまざまな就職支援を実施していますから、こうした情報発信に一層の工夫が望まれます。

イ. 就職活動の支援でより充実させてほしいことは何ですか



愛知教育大学公式マスコットキャラクター

愛教ちゃん



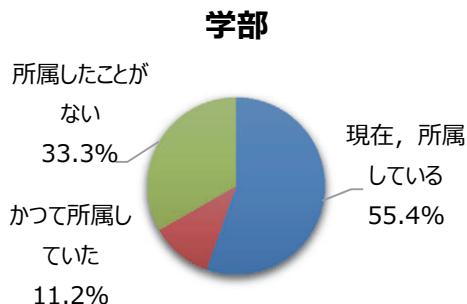
9) 課外活動

＜年々減少する課外活動団体加入率＞

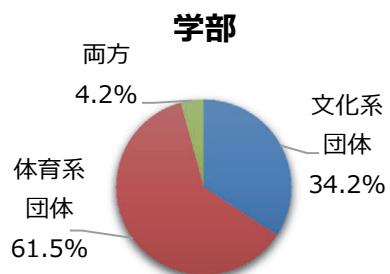
課外活動団体に加入している学部学生の割合は55%、かつて加入していた学生の割合は11%です。2年前、6年前の調査時には、それぞれ61%, 64%であり、調査ごとに減少する傾向が続いています。学生が加入している団体の内訳は、文化系34%、体育系62%、両方への加入が4%です。活動状況については、ほとんど毎日が12%、週に3~4回が23%、週に1~2回が50%、月に1~2回が15%です。課外活動に参加している学部学生にとって、課外活動が毎週の大学生活において重要な位置を占めていることがうかがえます。また、大学外の活動に参加している学生も18%ほどいることが判明しています。

加入の動機については、「教養、趣味、特技の向上」、「団体活動に魅力を感じて」、「友人を得るために」の順になっていますが、その他に「健康のため」など、さまざまな動機も挙げられています。一方、課外活動団体に所属したことがない学生(29%)について、その理由を尋ねたところ、「時間がない」が最も多く、次いで、「なんとなく」や「束縛されたくない」、「自分に適した団体がない」などの理由があげられていました。全体として、多くの学部学生が課外活動を有効に活用していると考えられます。

(本学の課外活動団体に所属していますか。)



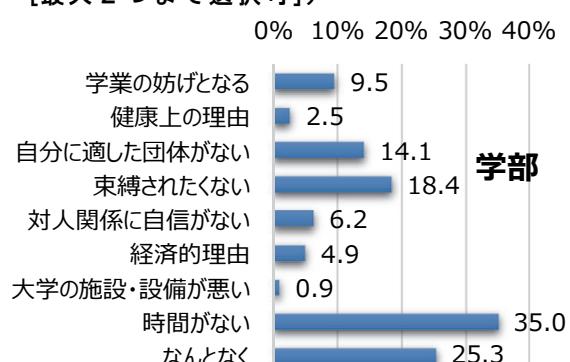
(所属している団体の区分をお答えください。)



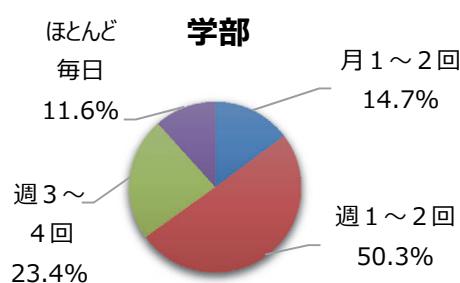
(所属したきっかけをお答えください。
[最大2つまで選択可])



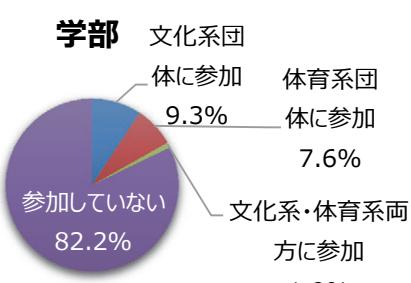
(所属していない理由をお答えください。
[最大2つまで選択可])



(活動状況をお答えください。)

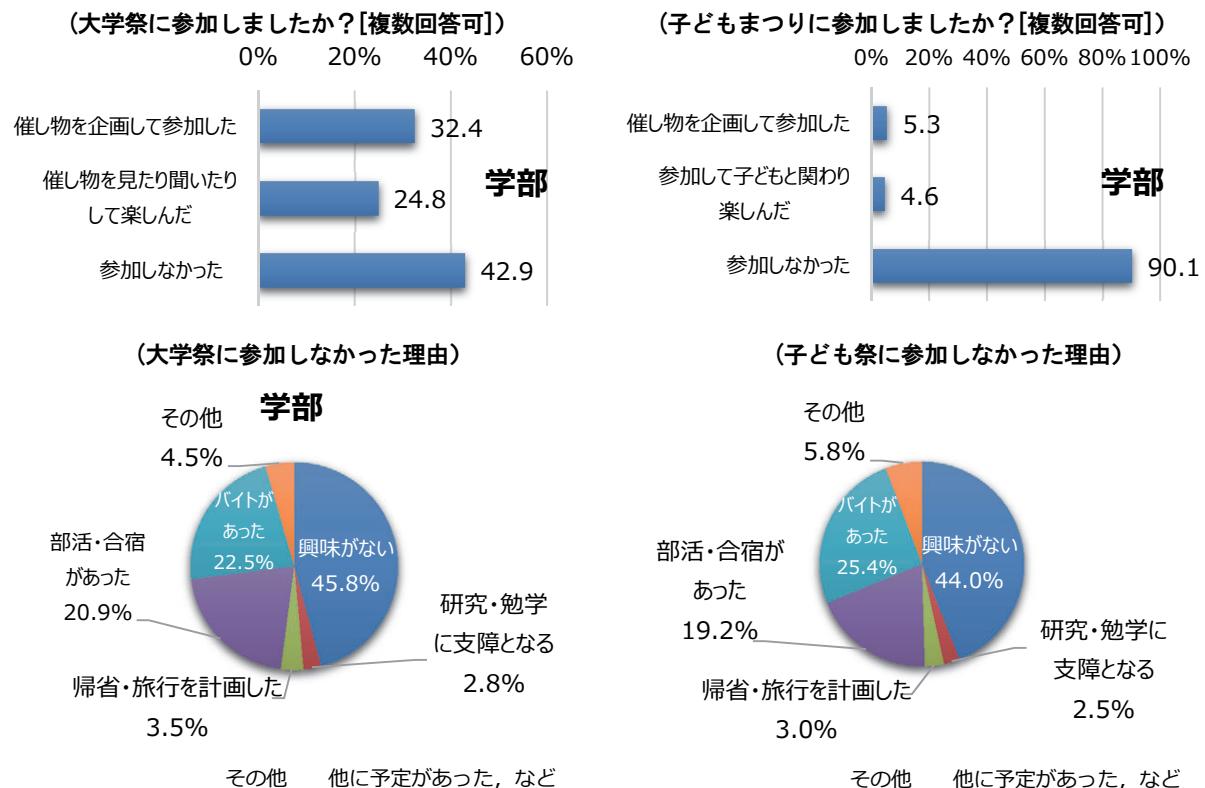


(学外の活動に参加していますか)



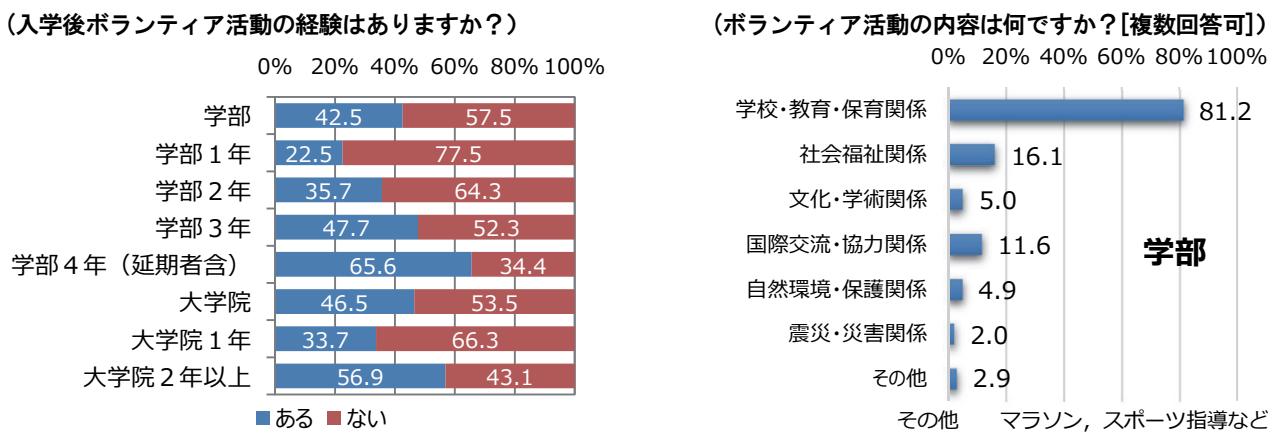
<年々顕著になる「まつり」離れ>

大学祭に参加した学生は学部学生の 57% であり、前回調査の 68%・前々回調査の 74% と比べて減少しています。子どもまつりについては参加が 10% で、こちらも前回調査の 17%・前々回調査の 26% と比べ減少傾向が顕著であり、大学祭に比べて参加者がかなり少なことがわかります。参加しなかった主な理由は、大学祭では「興味がない」が 46%、「バイトがあった」「部活・合宿があった」を合わせて 43% であり、子どもまつりでは「興味がない」が 44%、「バイトがあった」「部活・合宿があった」を合わせて 45% でした。前回調査に比べて参加者が減少していることは両方のまつりに共通の傾向であり、まつりよりも優先される活動が増えているようです。年 2 回の開催も、今後、大学祭・子どもまつりの開催意義と合わせて再確認してもらうことを期待します。



<増加するボランティア経験者>

ボランティア活動については、大学入学後にボランティア活動の経験がある学部学生の割合が 43% で前回調査より 5% 増えています。その内容の 8 割以上は学校・教育・保育関係でした。近年、カリキュラムにも実践力育成科目が設置され、学校サポート活動なども行われており、それらの活動の延長として自然とボランティア活動への参加するようになることが期待されます。



10) 施設

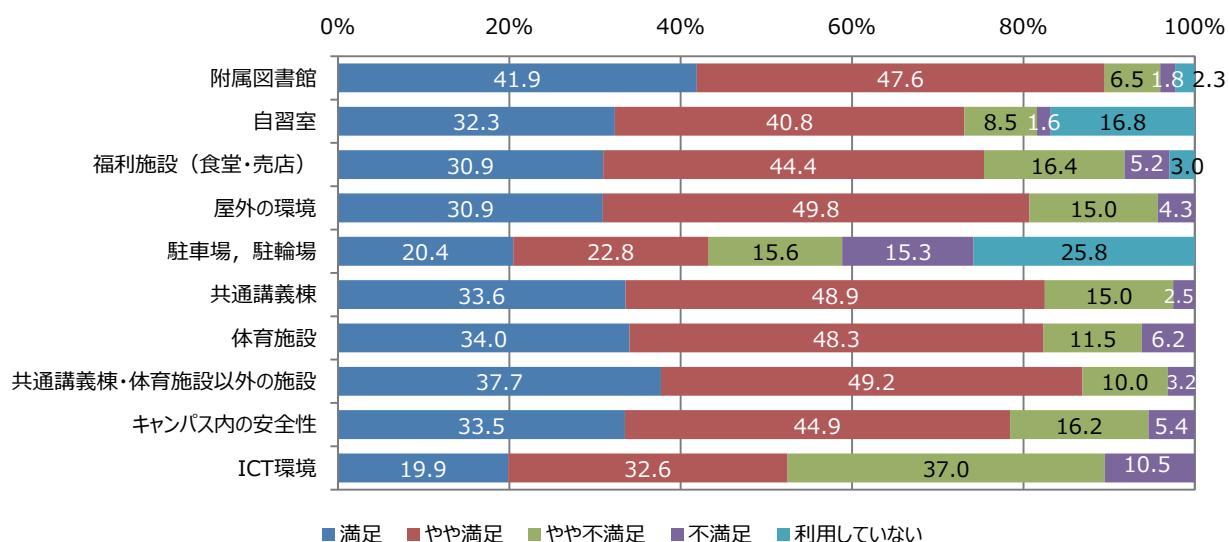
<図書館・屋外の環境・施設では満足度が増加したが、依然駐車場問題は改善の余地あり>

【全体的傾向】

前回の調査では 8 項目（附属図書館、自習室、屋外の環境、駐車場・駐輪場、共通講義棟、体育施設、共通講義棟・体育施設以外の施設、キャンパス内の安全性）を調査しました。今回は、上記 8 項目に、「福利施設（食堂・売店）」と「ICT 環境」を追加し、10 項目について調査しました（下図参照）。

今回の調査では、特に満足度が多いもの（満足・やや満足）としては、附属図書館、屋外の環境、共通講義棟、体育施設、共通講義棟・体育施設以外の施設が 80% を超えています。特に図書館は前回の 76.6% から 89.5% へ、屋外の環境も 69.3% から 80.7% へ、共通講義棟も 77.5% から 82.5% へと伸びています。

図 アンケート結果「キャンパス内施設全般について」



【自由記述内容からみる満足度】

自由記述については後のページに記載してあるように、さまざまな意見が寄せられています。上記のデータと自由記述の内容と関連させてみてみると、次のようなことがわかります。

- ・「図書館」は、蔵書数等に不満はあるものの、館内温度などの環境面では改善が見られ、満足度が多くなっています。
- ・「自習室」は、満足度が減っています（87.2%→73.1%）。前回データがないためはつきりしませんが、座席数（スペース）が不足しているのかかもしれません。
- ・「屋外の環境」は、大学は自然豊かな環境の中にあるものの、管理ができていないことや、移動が不便であることに不満を持つ学生が多いようです。
- ・「駐車場・駐輪場」は、前回の調査でも満足度が最も低かった項目です。ただ、前回調査で満足度が 24.4% だったものが、今回調査では 43.3% へと 20 ポイントも伸びました。後の自由記述をみれば、駐車場について不満は相変わらず多いものの、駐輪場は調査後に増設され改善がみられます。
- ・「共通講義棟」は、室内温度や清掃状況については改善傾向が見られるものの、トイレに対する不満が目立ちます。
- ・「体育施設」は、全体でみると、前回データでは満足度が 80.7% で、今回も 82.3% と安定しています。しかし、自由記述をみると、グラウンド・コンディションや体育関設備に不満がみられます。
- ・「共通棟・体育施設以外の施設」は、建物の老朽化などはありますが、それほど不満は多くはないようです。

- ・新しい項目である「福利施設（食堂・売店）」は、満足度が 80%を切っています。新項目のためは前回と比較できませんが、値段やメニューへの不満が 200 以上あることから、改善の余地があるでしょう。
- ・「ICT 環境」は、自由記述がないため詳細はわかりませんが、満足度が 52.5%となっており、決して満足のいく状況にはないことがわかります。
- ・前回の自由記述データがないため、比較できませんが、「キャンパス内の安全性」については前回が 82.2% たったものが、今回調査では 78.4%へ下降しています。不審者、警備・セキュリティで不満がみられます。学生の安全にかかわることですので、改善を急いだ方がよいでしょう。

【自由記述内容】

以下は、キャンパス内施設全般について満足していないこと（自由記述）です。括弧内は、昨年の実数を示しています。（母数が異なるため、単純に比較はできませんが、前回より改善したものには△、悪くなっているものには▼をつけました）

附属図書館で満足していないこととして多いもの

- ・ ▼ 藏書関係の不満（蔵書数の増、一般小説の増、新刊本の増） 216（176）
- ・ 座席数の不満 139（前回データなし）
- ・ △ 館内温度の不満（空調の効きが悪い、使える時期が短いなど） 84（144）
- ・ 閉館時間の不満 31（37）
- ・ 利用マナーが悪いことへの不満 29（前回データなし）
- ・ 飲食スペースの不満 16（35）

自習室で満足していないこととして多いもの

- ・ 座席数（スペース）の不満 239（前回データなし）
- ・ 快適性が悪いことの不満（暑い、狭い、臭いなど） 116（130）
- ・ 利用マナーが悪いことの不満 58（65）
- ・ △ 自由に利用できないことの不満（教室数が少ない、授業やサークル優先で使えない時がある） 31（145）

福利施設（食堂・売店）（新項目のため、前回データなし）

- ・ 値段の不満 234
- ・ メニュー（品数・味）の不満 224
- ・ 混雑状況の不満 170
- ・ 営業時間の不満 73
- ・ 座席数（スペース）の不満 63

屋外環境で満足していないこととして多いもの

- ・ 自然環境への不満（虫やハチが多い、坂が多いなど） 156（177）
- ・ ▼ 管理が出来ていないことへの不満（汚い、整備されてない自然が多いなど） 109（42）
- ・ 休憩スペースの少なさの不満（日陰の休憩スペースが欲しいなど） 100（89）
- ・ ▼ 建物間の移動の不満（遠い、屋根付きの通路がないなど） 84（31）

駐車場・駐輪場で満足していないこととして多いもの

- ・ ▼ 駐車場が足らないことの不満 480（227）
- ・ 駐車場環境が悪いことの不満（遠い、白線が見えないなど） 207（前回データなし）
- ・ △ 駐輪場環境が悪いことの不満（教室から遠い、坂で停めにくく、ドミノ倒しになる、屋根が付いていない、狭くて汚い、蜘蛛の巣が張っているなど） 109（176）
- ・ △ 駐車場を駐輪場に転換した（P5駐輪場）ことの不満（自動車利用者からは利用状況が悪く駐車場が減ったこと、自転車利用者からは遠く使いづらいこと） 65（662）

共通講義棟で満足していないこととして多いもの

- ・ ▼ トイレに対する不満（数が少ない、2階の男子トイレが1カ所しかない、洋式が少ない、ジェットタオルの使用禁止など） 208（127）
- ・ △ 清掃・利用状況の不満（汚い、臭うなど） 109（197）
- ・ △ 室内温度の不満（温度を個別管理に変更、使える時期、換気など） 75（101）
- ・ Wi-Fi、無線 LAN の不満 20（前回データなし）

体育施設で満足していないこととして多いもの

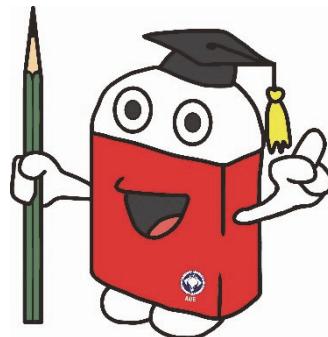
- ▼ グラウンド・コンディションが悪いことへの不満（芝生が整備されていない、でこぼこ、怪我の恐れがあるなど） 170 (94)
- ▼ 体育館の整備に対する不満（雨の日に床が滑る、暑いなど） 133 (98)
- トレーニングセンターの不満 64 (前回データなし)

共通棟・体育施設以外の施設で満足していないこととして多いもの

- 自然科学棟の老朽化の不満 48 (37)
- 音楽棟に対する不満（空調、ピアノの調律など） 46 (56)
- 養護教諭棟 45 (前回データなし)
- 福利施設利用の不満（混雑、営業時間など） 13 (47)

キャンパス内の安全性（新項目のため、前回自由記述のデータなし）

- 不審者 163
- 警備・セキュリティ 157
- 盗難 69
- 爆破予告 44



愛知教育大学公式マスコットキャラクター
エディ



教育・人文棟



AUEセミナーハウス



次世代教育イノベーション棟

11) 大学に期待すること

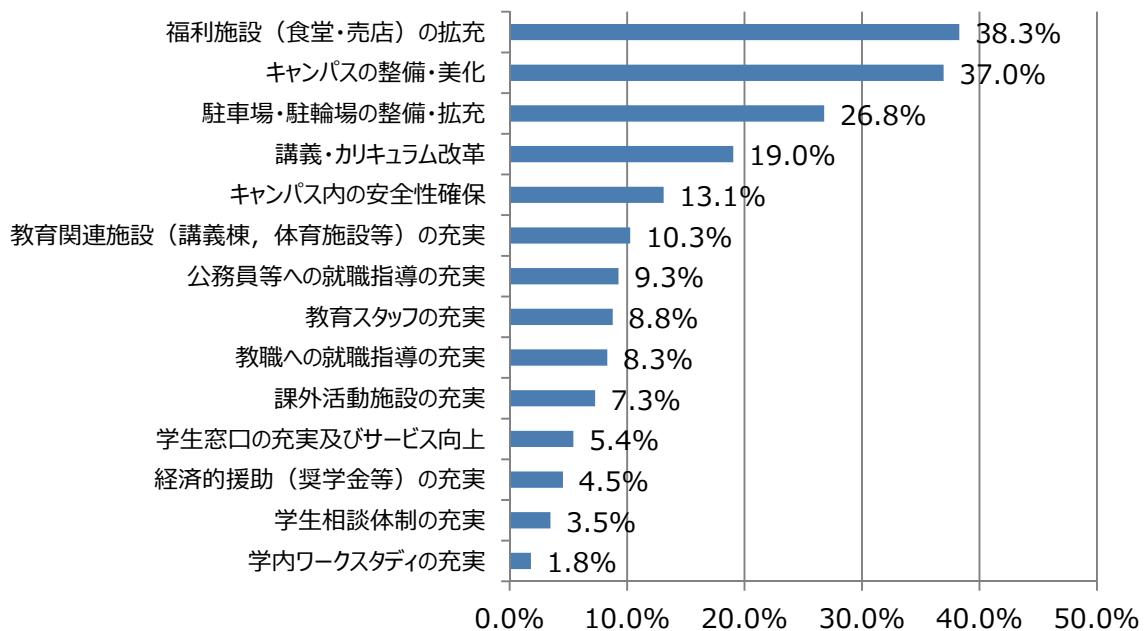
<学生の期待は「福利施設(食堂・売店)の充実」「ICT環境の整備」そして「講義・カリキュラムの改革」と「安全性の確保」>

今後、大学が優先的に取り組んでほしいこととしては、「福利施設(食堂・売店)の充実」と「キャンパスの整備・美化」が共に4割弱と多くなりました（複数回答）。前回調査とは回答方法が異なり（前回は2項目選択）ですが、上位3項目を比較すると、「福利施設」が若干増加し、「駐車場・駐輪場」が若干減少した結果となりました。その一方で、今回4位「講義・カリキュラム改革」と5位「キャンパス内の安全性確保」が各々10ポイント近く増加したことは注目されます。この4年間で施設等のハード面が改善される中、今後はソフト面の充実も求められていると言えましょう。次の自由記述も併せてご覧ください。

○自由記述（大学への要望・期待）から

記述された217件（172人が回答）の意見を大別すると、1位は「施設」関係の要望（36.9%）ですが前回に比べて10ポイント以上減少し、反対に2位「授業・教育」25.8%と3位「教員・職員」18.4%が各々約10ポイント増加しています。次いで「進路・就職」6.5%、「通学」3.7%の順でした。寄せられた具体的な意見は表のとおりです。前回に比較して、Wi-Fi等のネット環境の整備や、カリキュラム・授業の質改善への要望が多くみられます。また、経済支援への期待や学生マナーに対する批判もみられます。

（今後、愛知教育大学に優先的に取り組んでほしいことは何でしょうか？）（複数回答）



AUE スクエア

(学生生活全般について、大学へ期待することなど、ご意見があればお聞かせください) (自由記述)

項目・件数	主な意見項目	件数	主な具体的意見
施設 80 (36.9%)	ネット環境等の整備	13	Wi-Fi 環境の拡充（全教室で、接続が切れやすい）、充電設備、学務ネットの安定化、出欠席をネットで自己確認したい、教育未来館のPCを新しく、SPSSの使用希望
	空調・エアコン	9	集中管理の廃止、時期ではなく気温を基準としての使用許可（夏場の早期使用の許可）、サークル活動中の使用許可（体育館等も含む）
	科室・院生室・ロッカー室の整備	8	科室を希望（日本語教育）、院生室が不平等（有無、他との共同利用は不便）、院生室の移動について説明を、ロッカーがほしい
	学生が多く利用する建物の美化	8	自然科学棟、人文情報棟、音楽棟、授業で使用する場所、養護教育棟
	運動系施設の整備	9	グラウンドがでこぼこしていて危険、人工芝を希望、陸上競技場がボロボロ、テニスコートをオムニコートに、体育館の床・トレーニングセンターの整備
	音楽系施設の整備	5	音楽棟のピアノ調律、ピアノと椅子の修繕、管弦楽部等の練習場所の確保
	駐車場の整備	5	駐車場の増設、駐車場のラインや側溝の整備
	コンビニ等の新設	5	コンビニ、スターバックスの新設
	生協・食堂の改善	4	レンジやお湯（ポット）が常用できるように、学食の値下げ、晩御飯がない
	図書館の充実	4	レベルの高い論文が読めなくなった、新刊図書の購入、勉強できない
授業・教育 56 (25.8%)	その他	10	所属棟以外の棟に日祝日に入れず不便、印刷機・コピー機の増設、教室の備品管理（スクリーン、マーカー）、トイレの改修（洋式化、エーゲタオルの使用許可）、共同利用・空きスペースの拡充、リソースルームへのアクセス改善、虫が多い（寮）、大学を名古屋に移転、学生の意見・要望を聞いて工事してほしい
	カリキュラムの改善	26	○教員になるための養成学校ではなく教育「大学」であってほしい、実践力を鍛える授業を、授業実践の基盤となる教育学や内容学も大切、教育原理は内容が濃いので2年以降で、一般教養科目やパワーポイント作成など実用的な授業も必要、必修科目の見直しを、キャリアデザイン科目や学校サポート科目は不要、教育支援専門職課程と教員養成課程を区別した授業を、両課程の交流の機会を、高校教員養成にも力を入れてほしい ○複数教科免の取得を可能にできないか、他専攻の授業も受講したい、キャップ制の廃止、内容が科目間で重複している、同一科目名でも教員により内容・評価が違う（科目的目的・目標を教員間で共有を、自由選択を認めてほしい）、進路変更（教職から他職種へ）したい学生への教務上のサポートや選択肢の提示 ○夜間・土日開講授業が限定的
	授業の質の改善	19	内容・教授法の改善を（配布プリントを読むだけの授業）、院生にレポート発表させてコメントもない、大学院担当教員の指導力に課題、授業内容や板書が無計画、時間に遅れる、教員の自慢話）、もっとためになる面白い授業を、アクティブラーニングの導入、学生はお金を使って授業を受けている
	教員の増員	4	社会科教員の増員を（歴史科、政治学）、造形文化コースの非常勤講師時間数増加を（織、陶芸）
	ゼミ配属の改善	2	成績順でゼミ配属が決まるのは悲しい、ゼミ配属は教採後に
	夏休みの短縮化	5	夏休み・春休み共に2か月に、長い夏休みのメリットを感じられない
	教員・職員 40 (18.4%)	14	不親切、高圧的、仕事が遅い、業務内容の理解不足
	教員の態度改善	6	指導教員からのパワハラ、暴言、社会人として遺憾
	日程等の連絡を早く	6	講演会や集中講義の日程、介護等体験・学校サポート活動の配当先、日程はせめて1か月前までに連絡を
	ガイダンスの改善	5	意味のあるガイダンスを（不要なガイダンスが多い）、時間超過は困る、要件を手短に、自由参加を希望
進路・就職 14(6.5%)	部局間の連携、課内の情報共有	5	教務課・キャリ支・国際課などの部局間連携をしっかり（学生の予定等）、課員により対応が異なる、情報共有不足
	その他	4	多忙な職員の改善、情報保障学生支援団体専属スタッフの配置、部活動への意識向上、他専攻の教員と話す機会があるといい
	企業就職支援の充実	7	資料・情報量を増やす、教員養成課程学生への企業就職支援
	教員就職支援の充実	4	面談練習、正規就職への支援、ガイダンスでは「教職の魅力」より「教育現場の課題とそれに対する取組」「学生のうちに取り組んでほしいこと」等現実的な話を聞きたい
	その他	3	県外生への対応、キャリア支援（予約方法等）の急なシステム変更は困る、メールの文面が分かりにくい
通学 8(3.7%)	スクールバスの運行を	4	名鉄バスは高い、知立駅までの直通バスを
	公共交通機関の改善	4	日進駅一大学間の増便を、終バス（日進駅行）が早い
その他 19 (8.8%)	経済支援	6	学会発表等への支援（交通費、宿泊費）、困窮学生への支援、授業料分納
	学生のマナーが悪い	4	学部生のモラル・ルール遵守の意識や周囲への配慮意識が低すぎる（運転時の速度超過、路上停車、一時停止無視、ノーヘルでの原付運転、盗難、授業中に廊下で騒ぐ、夜間の下宿での騒音、物の管理がいい加減、駐車場でたむろして移動しない、他）、学生に注意喚起してほしい
	留学・留学生支援	2	提携校の拡大、留学生の文化の受容
	その他	7	大学主催の地域ボランティアの創設、他大学や様々な活動との交流・連携促進、学内ワークスタディとは何か、頑張って下さい



12) 総括

今回の調査は初めて Web 入力方式で実施しました。回収率の低下が懸念されましたが、全体で 72.7% と多くの回答を得ることができ、在学学生の意識をおよそ網羅するデータになったと考えます。今回の調査を通して明らかになった学生の意識や実態の特徴をまとめると以下の通りです。

○経済状況が及ぼす学生生活への影響

学生の経済状況が徐々に厳しくなってきてている様子がうかがえます。例えば、家庭からの支援を受けていない下宿学部生が前回の 12%から 21%に増加しました。支援がある下宿学部生の場合でも、5~7 万円を援助する家庭が 29%から 19%に減少し 5 万円未満が増加しました。大学院生では自宅生の約 4 割が授業料を自分で負担しています。

このような状況に呼応してアルバイトで稼ぐ金額は増加し、5 万円以上になる学部生が 45%（前回 39%）、大学院生は 42%（同 33%）に増加しています。アルバイトに費やす時間も 3 時間以上の自宅学部生が 61%、下宿学部生は 69%となり、前回の 60%（学部全体）より増加しました。特に下宿生は学部生の 5 人に 1 人、大学院生の 3 人に 1 人が毎日 5 時間以上のアルバイトをしています。

連動して、授業以外での学習時間も前回より更に短くなり、1 日 1 時間未満の自宅学部生が 72%、下宿学部生が 68%でした（前回 68%）。一方、大学院生はこのような状況下でも反対に自宅生の 74%、下宿生の 84%が 1 時間以上の自主学習に取り組んでおり、前回とほぼ同様の状況が見られます。

課外活動でも加入率が低下し、学部生は 55%（同 61%）に留まっています。加入者の活動日数は毎日が 12%、週に 3~4 日が 23%であり、多くは週 1 日程度です。活動時間も 1 日 3 時間以上の学部生は 31%（同 41%）であり、課外活動の短時間化・不参加傾向がうかがえます。不参加の主な理由は「時間がない」です。このように自宅学生が 77%を占める本学では、経済状況の悪化に伴う通学やアルバイトの長時間化が、結果的に自主学習や課外活動時間を削減する方向に影響しているのではないかと考えられます。

その一方で、SNS や娯楽ゲームの利用時間が 2 時間以上の学部生が 33%、大学院生も 18%ありました。睡眠時間は 6 時間未満の学部生が 55%（同 58%）、大学院生は 50%（同 50%）となっており、前回と同様、睡眠不足の状況が続いている。特に学部 2 年生は 63%に達しています。

学生自らが健康的な生活を心がけるとともに、そのような学生生活を支援し、安心して大学・大学院に進学し学修を深められるような経済支援や修学支援が必要だと言えます。大学院生からは経済支援として、学会発表時の交通費や宿泊費の支援を求める意見も出されています。

○通学状況

自宅通学生が前回と同様に 77%と多く、公共交通機関を利用する自宅学部生が 61%、通学時間が 90 分以上になる自宅学部生も 36%と前回より増加傾向にあります。そのため、自宅学部生は交通費及び通学時間、電車・バスの便数に対し不満をもっており、その自衛策として自動車通学者が前回より増加（27%から 30%へ）していると考えられます。特に学部 2 年生は 7 ポイント増の 33%、4 年生は 47%、大学院生は 65%が自動車通学です。

このことは、結果として駐車場不足と駐車場内での事故の多発を招いていると考えられます。なお、駐車場・駐輪場に対する不満は前回 51%から 31%と 20 ポイントも低下しており、この 4 年間でかなり改善されたことがわかりますが、引き続きアクセスの利便性を図っていくことが必要でしょう。

○授業に対する意識

前回は、学生からより実践的な授業内容を求める意見が出されました。この 4 年間で学部改組を実施し実践的科目を多く新設した結果、これらの指摘はほとんどなくなりました。反対に、授業実践の基盤となる教育学や内容学等の充実や、全員履修の同一科目でも課程別開講としそれぞれに適した授業内容を期待する意見等が出されています。また、高校教員養成への期待や、複数教科免許の同時取得、他専攻科目

の受講等に対する期待も寄せられています。そのためにはキャップ制の廃止も検討事項でしょう。

一方で、教員養成系科目が充実する中で、教職から他職種へ転向を考える学生への教務的対応を求める意見も出ています。また、教員の授業内容や方法への厳しい意見、特に、大学院における授業方法や指導教員の指導に対する不満も今回は散見されました。不断の授業改善・教育の質的改善が一層求められていると言えます。

○就職活動への支援

キャリア支援課による就職支援については、学部1、2年生において「今後利用する」「支援を知らないかった」とする回答が大部分を占めるものの、3年生では「利用する」学生が3割に増加し、4年生では7割に達していました。しかし、大学院生では4割に留まっています。利用しない理由としては、「自分で対策できる」とする意見が大学院生で6割を占めています。学部3年生では「利用しづらい」が半数を占めており、その具体を明らかにして支援態勢を改善することが必要でしょう。

充実させてほしい支援としては、「進路に対する悩みの個別相談」「就職試験対策のための個別指導」が学部・大学院ともに高くなりました。集団での指導やガイダンスが充実する中で、「個別」の支援がキーワードになっていると言えます。

○学生支援体制の状況

指導教員を知っている1年生は82%（前回79%）ですが、オフィスアワーを知らない1年生が40%（同29%）、教員と話す機会も「ない・ほとんどない」1年生が38%（同33%）に増加するなど、教員との交流の機会が減少してきています。教員との定期的な面談を希望する学生は全体でわずかに6%ですが、勉学に対する心配事・悩みを1年生の半数近くが抱えています。相談相手について学部生は「父母」が82%（同65%）と最多で前回よりかなり増加していますが、ゼミ所属が決まらない1、2年生段階での指導教員の役割も、大学生活への適応支援の点では重要ではないでしょうか。なお、全学の中で相談できる場所を知っている学生は77%（同58%）となり、認知度が前回から大幅に改善しました。

○課外活動と本学の魅力

課外活動の短時間化・不参加傾向については前述したとおりですが、その他、大学祭への参加率も57%（前回68%）、子どもまつりは10%（同17%）と低下傾向が続いています。不参加の理由は「興味がない」が半数近くを占めています。課外活動に不参加の理由も、前述の「時間がない」の他、「なんとなく」「束縛されたくない」が続いています。学校サポート活動等の実践的活動が教科として導入され、日常的に子どもと関わる機会が増加した影響もあるかもしれません。

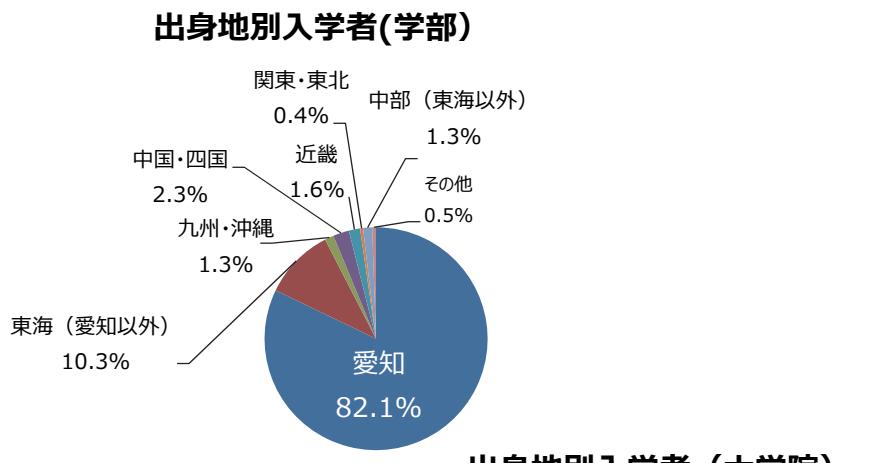
一方、「本学に入学して良かったと思う時」は「友人との交流」「部活・サークルなどの課外活動」「興味のある分野の勉強」との回答が学部生で多くなりました。課外活動や諸行事への参加は協同性を始め人間性を向上させる上で有効であると考えます。そして、それが本学の魅力でもあるのです。これらの活動やボランティア活動、様々な学生主体の活動が継続・発展していくような支援が重要であると考えます。

○建物・学習環境・生活環境に対する意識

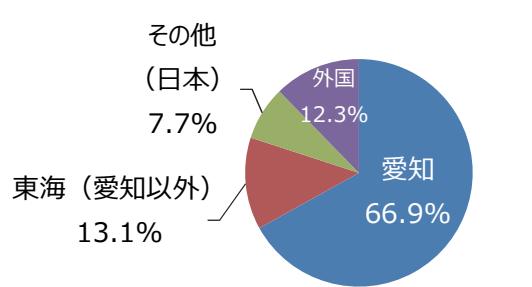
この4年間で構内の建物改修や通路の整備等が進み、施設に対する満足度が上昇しました。特に図書館90%（前回77%）、屋外環境81%（同69%）、共通講義棟83%（同78%）等の満足度が高いです。駐車場・駐輪場は43%（同24%）とまだ低いものの前回より約20ポイントも改善されました。一方、今回問題になったのはICT環境で、満足度が53%に留まっています。また、自習室も87%から73%に減少しています。建物改修に伴って、学生達の居場所や集団での活動場所に戸惑いと不都合が生じているかもしれません。教室の空調に対する要望（集中管理の廃止、時期ではなく気温を基準にした使用許可等）や、福利施設（食堂・売店）の価格の値下げ要求も出されています。今後は、ハード面に加えてソフト面での学習・生活環境整備が必要でしょう。

13) 参考資料

出身地別入学者(学部) [人]	
愛知	750
東海(愛知以外)	94
九州・沖縄	12
中国・四国	21
近畿	15
関東・東北	4
中部(東海以外)	12
その他	5
合計	913

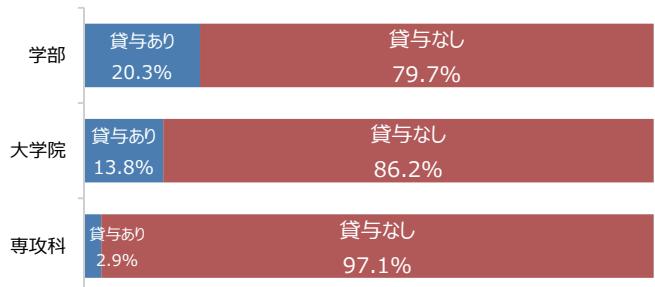


出身地別入学者(大学院) [人]	
愛知	87
東海(愛知以外)	17
その他(日本)	10
外国	16
合計	130



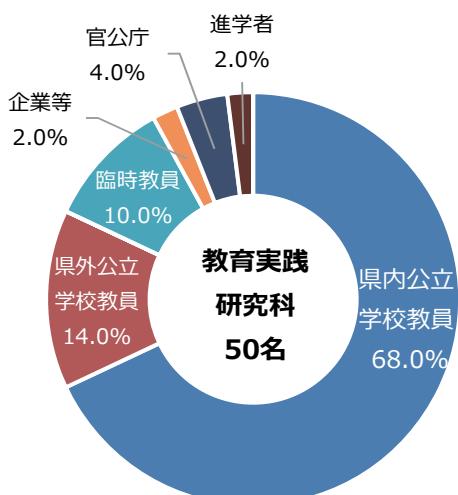
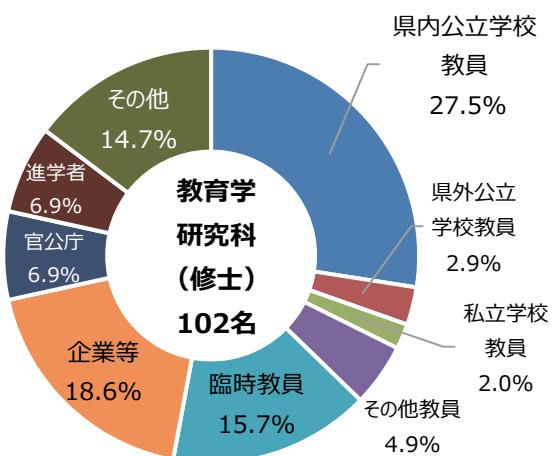
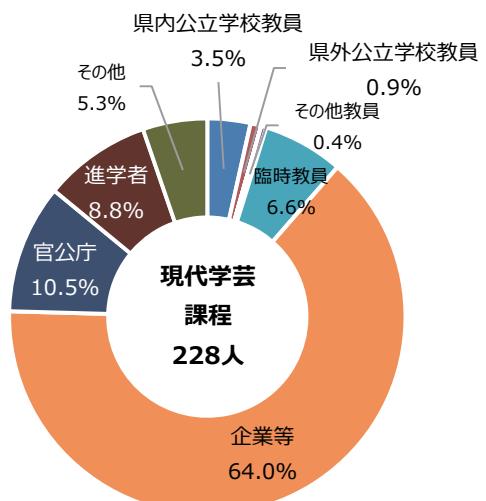
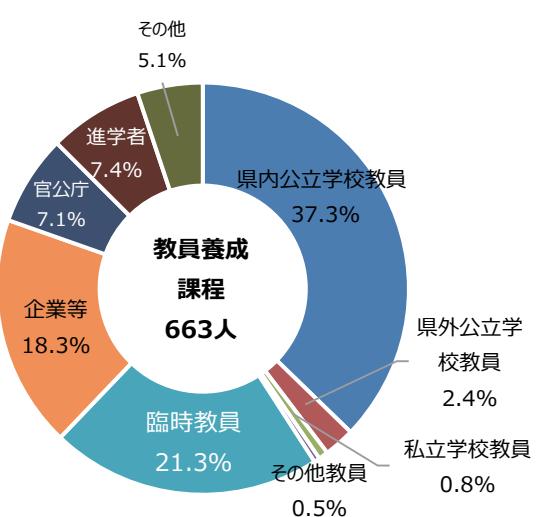
令和元年度日本学生支援機構奨学金貸与者数 [人]			
	在学者数	貸与あり	貸与なし
学部	3791	769	3022
大学院	311	43	268
専攻科	34	1	33

(2020.3 現在)



令和元年度授業料免除申請状況 [人]												
区分	学年	前 期				後 期						
		申請者	基準外	免除許可者			申請者	基準外	免除許可者			
全額免除	半額免除	教職特別措置	全額免除	半額免除	一部免除	教職特別措置	全額免除	半額免除	一部免除	教職特別措置		
学 部	1 年	72	3	59	10	–	83	1	66	16	0	–
	2 年	106	4	79	23	–	110	1	81	28	0	–
	3 年	97	11	54	32	–	102	4	67	31	0	–
	4 年	108	11	73	24	–	103	3	76	24	0	–
大 学 院	修 し と	35	5	23	7	–	36	4	23	9	0	–
	専 門 職	6	0	1	5	32	8	1	2	5	0	32
	博 士	1	1	0	0	–	0	0	0	0	0	–
専 攻 科		3	0	3	0	–	3	0	3	0	0	–
合 计		428	35	292	101	32	445	14	318	113	0	32

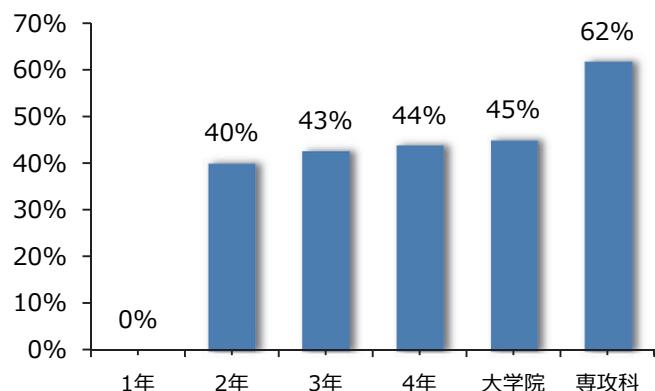
平成30年度卒業生就職状況		教員養成 課程	現代学芸 課程	教育学研究科 (修士)	教育実践 研究科	[人]
教員	県内公立学校教員	247	8	28	34	
	県外公立学校教員	16	2	3	7	
	私立学校教員	5	0	2	0	
	その他教員	3	1	5	0	
	臨時教員	141	15	16	5	
企業等		121	146	19	1	
官公庁		47	24	7	2	
進学者		49	20	7	1	
その他		34	12	15	0	
合計		663	228	102	50	



令和元年度 四輪車入構登録			
	学生数 [人]	登録者数 [人]	登録率
学部1年	911	0	0.0%
学部2年	910	364	40.0%
学部3年	916	391	43.0%
学部4年	1,054	462	44.0%
学部計	3,791	1,217	32.0%
大学院	311	141	45.0%
専攻科	34	21	62.0%
合計	4,136	1,379	33.0%
駐車可能台数*	1,101		

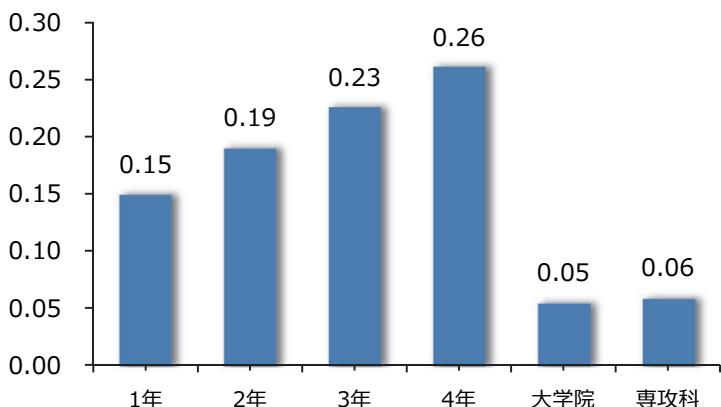
* 障害者・来客用等除く、非常勤講師・教職員専用含む

令和元年度 四輪車入構登録率



二輪車入構登録者							
学生数 [人]	許可台数					1人あたりの台数	
	自転車		オートバイ		計		
	H30	R1	H30	R1			
学部1年	911	0	116	0	20	136	0.15
学部2年	910	141	6	24	2	173	0.19
学部3年	916	171	4	29	3	207	0.23
学部4年	1,054	237	3	35	0	275	0.26
学部計	3,791	549	129	88	25	791	0.21
大学院	311	8	4	1	4	17	0.05
専攻科	34	0	1	0	1	2	0.06
合計	4,136	557	134	89	30	810	0.20

在学者1人あたりの二輪車駐輪登録台数



令和元年度 学生生活実態調査報告書

令和2年3月発行

編集 愛知教育大学学生支援委員会

委員長 新井 美保子(幼児教育講座)

副委員長 中筋 由紀子(教育ガバナンス講座)

委 員 近藤 裕幸(社会科教育講座)

中西 宏文(情報教育講座)

鷹巣 純(美術教育講座)

浅田 知恵(教職実践講座)

愛知教育大学 学生・国際課

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1